

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』（本願寺出版社）						
副教材等	オリエンテーションの葉 聖典聖歌 日々の糧						

1 学習の到達目標

宗教に関して単に知識をつめこむのではなく、自ら学び、自ら考える力を育みます。自分自身をしっかりと見つめ直し、より充実した生き方を追及できるように学習します。また、学校生活における生徒間のかかわりの中から、感謝の気持ちと、思いやりの心を身につけ、心豊かな宗教的情操を育むことを目標とします。

1 学年の宗教では、礼拝の作法や法要にまつわるオリエンテーションから入ります。その後、宗教とは何か、どのように宗教が生まれ、発展し、またどうして宗教を必要とするのかを総合的に学びます。次に仏教をひらかれた釈尊の生涯を学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りをひらき、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を学びます。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

毎時間日々の糧を通して、自分自身を振り返っていきます。「調身・調息・調心」。しっかりと心を落ち着けて参加してください。毎時間、みなさんにいろいろなことを考えていただきます。先生が授業で話したことや話を聞いて感じたことを自由にノートに控えるようにしてください。気づきを大切に、自らの築きにしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	宗教の各分野について体系的、系統的に理解しているとともに、礼拝の心を理解し、関連する技能を身につけている。	実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現している。	宗教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト	定期考査 パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応 感想文等の取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
一学期中間	オリエンテーション	オリエンテーション 相愛高等学校の宗教教育 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○	I：教育理念を理解し、礼拝の作法についての基礎知識を習得し、実践している。 II：日々の糧の内容について自分の問題として多面的・多角的に考察し、表現している。 III：宗教行事の内容を理解し、厳粛に受止め、積極的に参加している。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書
一学期期末				○	○		
二学期中間	宗教の起源	宗教の起源について 世界の宗教とその分類 原始宗教 民族宗教 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	I：宗教がどのように起こり、広まっていったのか、その起源を知る。原始宗教・民族宗教・世界宗教について学び、その種類や特徴を理解している。 II：それぞれの宗教に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：よりよい社会の実現を視野にそこで見られる宗教的な課題を主体的に追究しようとしている。	事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。また、内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
二学期期末	世界宗教	世界宗教 キリスト教 イスラム教 仏教 まとめ 期末考査 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	I：世界三大宗教についての理解を深め、身近にある宗教について理解している。 II：世界宗教に関わる事象の意味や意義、その特色などを多面的・多角的に考察したり、それぞれの宗教に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：よりよい社会の実現を視野にそこで見られる宗教的な課題を主体的に追	

						究しようとしている。	
三 学 期	釈 尊 の 歩 み	誕生 出家 成道 伝道 涅槃 まとめ 学年末考査 ※「日々の糧」・「聖典」の ことば・時事問題を交えな がら学習する。	○	○		I：仏教を開かれた釈尊の生涯とその教 えについて学びます。釈尊の出家の動 機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、 伝道の旅を続けられてから涅槃に至 るまでの足跡を求めながら釈尊の生 き方を理解している。 II：釈尊の五相について、それぞれのタ ーニングポイントでどのようなきっ かけがあったのか知り、自分の問題と してとらえて表現しようとしている。 III：釈尊の生涯から生き方について学 び、それを自分の問題として多面的・ 多角的に受け止め、積極的に取り組も うとしている。	

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』(本願寺出版社)						
副教材等	オリエンテーションの葉 聖典聖歌 日々の糧						

1 学習の到達目標

宗教に関して単に知識をつめこむのではなく、自ら学び、自ら考える力を育みます。自分自身をしっかりと見つめ直し、より充実した生き方を追及できるように学習します。また、学校生活における生徒間のかかわりの中から、感謝の気持ちと、思いやりの心を身につけ、心豊かな宗教的情操を育むことを目標とします。

1 学年の宗教では、礼拝の作法や法要にまつわるオリエンテーションから入ります。その後、宗教とは何か、どのように宗教が生まれ、発展し、またどうして宗教を必要とするのかを総合的に学びます。次に仏教をひらかれた釈尊の生涯を学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りをひらき、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を学びます。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

毎時間日々の糧を通して、自分自身を振り返っていきます。「調身・調息・調心」。しっかりと心を落ち着けて参加してください。毎時間、みなさんにいろいろなことを考えていただきます。先生が授業で話したことや話を聞いて感じたことを自由にノートに控えるようにしてください。気づきを大切に、自らの築きにしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	宗教の各分野について体系的、系統的に理解しているとともに、礼拝の心を理解し、関連する技能を身につけている。	実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現している。	宗教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト	定期考査 パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応 感想文等の取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
一学期中間	オリエンテーション	オリエンテーション 相愛高等学校の宗教教育 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○	I：教育理念を理解し、礼拝の作法についての基礎知識を習得し、実践している。 II：日々の糧の内容について自分の問題として多面的・多角的に考察し、表現している。 III：宗教行事の内容を理解し、厳粛に受止め、積極的に参加している。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書
一学期期末				○	○		
二学期中間	宗教の起源	宗教の起源について 世界の宗教とその分類 原始宗教 民族宗教 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	I：宗教がどのように起こり、広まっていったのか、その起源を知る。原始宗教・民族宗教・世界宗教について学び、その種類や特徴を理解している。 II：それぞれの宗教に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：よりよい社会の実現を視野にそこで見られる宗教的な課題を主体的に追究しようとしている。	事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。また、内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
二学期期末	世界宗教	世界宗教 キリスト教 イスラム教 仏教 まとめ 期末考査 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	I：世界三大宗教についての理解を深め、身近にある宗教について理解している。 II：世界宗教に関わる事象の意味や意義、その特色などを多面的・多角的に考察したり、それぞれの宗教に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：よりよい社会の実現を視野にそこで見られる宗教的な課題を主体的に追	

						究しようとしている。	
三 学 期	釈 尊 の 歩 み	誕生 出家 成道 伝道 涅槃 まとめ 学年末考査 ※「日々の糧」・「聖典」の ことば・時事問題を交えな がら学習する。	○	○		I：仏教を開かれた釈尊の生涯とその教 えについて学びます。釈尊の出家の動 機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、 伝道の旅を続けられてから涅槃に至 るまでの足跡を求めながら釈尊の生 き方を理解している。 II：釈尊の五相について、それぞれのタ ーニングポイントでどのようなきっ かけがあったのか知り、自分の問題と してとらえて表現しようとしている。 III：釈尊の生涯から生き方について学 び、それを自分の問題として多面的・ 多角的に受け止め、積極的に取り組も うとしている。	

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』（本願寺出版社）						
副教材等	オリエンテーションの葉 聖典聖歌 日々の糧						

1 学習の到達目標

宗教に関して単に知識をつめこむのではなく、自ら学び、自ら考える力を育みます。自分自身をしっかりと見つめ直し、より充実した生き方を追及できるように学習します。また、学校生活における生徒間のかかわりの中から、感謝の気持ちと、思いやりの心を身につけ、心豊かな宗教的情操を育むことを目標とします。

1 学年の宗教では、礼拝の作法や法要にまつわるオリエンテーションから入ります。その後、宗教とは何か、どのように宗教が生まれ、発展し、またどうして宗教を必要とするのかを総合的に学びます。次に仏教をひらかれた釈尊の生涯を学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りをひらき、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を学びます。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

毎時間日々の糧を通して、自分自身を振り返っていきます。「調身・調息・調心」。しっかりと心を落ち着けて参加してください。毎時間、みなさんにいろいろなことを考えていただきます。先生が授業で話したことや話を聞いて感じたことを自由にノートに控えるようにしてください。気づきを大切に、自らの築きにしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	宗教の各分野について体系的、系統的に理解しているとともに、礼拝の心を理解し、関連する技能を身につけている。	実社会や実生活と自己とのかかわりから、問を見出し、自分で課題をたてて情報を集め、整理、分析してまとめ、表現している。	宗教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト	定期考査 パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応 感想文等の取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
一学期中間	オリエンテーション	オリエンテーション 相愛高等学校の宗教教育 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○	○	○	I：教育理念を理解し、礼拝の作法についての基礎知識を習得し、実践している。 II：日々の糧の内容について自分の問題として多面的・多角的に考察し、表現している。 III：宗教行事の内容を理解し、厳粛に受止め、積極的に参加している。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書
一学期期末				○	○		
二学期中間	宗教の起源	宗教の起源について 世界の宗教とその分類 原始宗教 民族宗教 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	I：宗教がどのように起こり、広まっていたのか、その起源を知る。原始宗教・民族宗教・世界宗教について学び、その種類や特徴を理解している。 II：それぞれの宗教に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：よりよい社会の実現を視野にそこで見られる宗教的な課題を主体的に追究しようとしている。	事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。また、内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
二学期期末	世界宗教	世界宗教 キリスト教 イスラム教 仏教 まとめ 期末考査 ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	I：世界三大宗教についての理解を深め、身近にある宗教について理解している。 II：世界宗教に関わる事象の意味や意義、その特色などを多面的・多角的に考察したり、それぞれの宗教に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：よりよい社会の実現を視野にそこで見られる宗教的な課題を主体的に追	

						究しようとしている。	
三 学 期	釈 尊 の 歩 み	誕生 出家 成道 伝道 涅槃 まとめ 学年末考査 ※「日々の糧」・「聖典」の ことば・時事問題を交えな がら学習する。	○	○		I：仏教を開かれた釈尊の生涯とその教 えについて学びます。釈尊の出家の動 機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、 伝道の旅を続けられてから涅槃に至 るまでの足跡を求めながら釈尊の生 き方を理解している。 II：釈尊の五相について、それぞれのタ ーニングポイントでどのようなきっ かけがあったのか知り、自分の問題と してとらえて表現しようとしている。 III：釈尊の生涯から生き方について学 び、それを自分の問題として多面的・ 多角的に受け止め、積極的に取り組も うとしている。	

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	必修	選択等	音楽科
教科書	「現代の国語」(大修館書店)						
副教材等	「常用国語便覧」(浜島書店) 「常用漢字必携パーフェクトクリア」(尚文出版)						

1 学習の到達目標

論理的な言語活動を通じて、思考力や判断力を実践的に高めていくことともに、自身の考えや主張を適切に表現しつつ、他者の意見を理解することで考えを深めていく態度を養っていく。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題をつかむこと、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することも能力として養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能(技術)	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心を持ち、効果的に文字を書いている。	目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期 中間	学ぶ考える／言語と文化	【明日をひらく】 教材：「考える技術」		○	○	I：何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えている。 II：何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えている。 III：話すこと・聞くことに必要な文の組立てについて理解している。	I, II, III： 行動の観察と確認
		【要点をつかむ】 教材：「水の東西」	○	○		I：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III：正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I, II, III： 行動の観察と確認
1学期 期末	生命と環境	【論理をとらえる】 教材：「自然と人間の関係をとらえて考える」	○	○		I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I, II, III： 行動の観察と確認
2学期 中間	自己他者	【情報を比較する】 教材：「空気を読む」	○	○		I：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III：正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I, II, III： 行動の観察と確認
2学期 期末	メディア情報	【要点をつかむ】 教材：「動」への変化		○	○	I：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III：正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I, II, III： 行動の観察と確認

3 学 期	社 会	【主張を吟味する】 教材： 「贅沢を取り戻す」	○	○	I：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III：正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I，II，III： 行動の観察と確認
-------------	--------	---	---	---	---	----------------------------------

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2	選択等	必修
教科書	『言語文化』（大修館書店）						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』（啓隆社） 『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店） 『古文単語 300』（旺文社）						

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題をつかむこと、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することも能力として養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	古文入門	【古典】 歴史的仮名遣い、品詞 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 『枕草子』「雪のいと高 う降りたるを」 用言の学習	◎	○	○	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 作品の成立時代や背景を理解し、文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
1 学期 期末	文学創作	【近代以降】 『羅生門』に基づいて 小説を書くことを学ぶ 【参考】『今昔物語集』	○	◎	○	物事の様子や場面などを、読み手が言葉を通してありありと想像できるよう描いている。 書くことに必要な、文の組み立てについて理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 中間	物語を読む	【古典】 助動詞の学習 『伊勢物語』 「あづま下り」 俳句、短歌	○	◎	○	文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 期末	漢文入門・小説	【古典】 教材： 故事成語「蛇足」 思想『論語』 訓点、再読文字 『論語』 【近代以降】 『城の崎にて』	◎	○	○	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれてきたことに気付いている。 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	短 詩 形 文 学 を 味 わ う	【近代以降】 〈俳句と短歌の代表的な作品を鑑賞する〉 教材： 教科書に掲載された 俳句と短歌	○	◎	○	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	・ 行動の観察 ・ 記述の確認 ・ 提出物 ・ 小テスト ・ 定期考査
	古 文 の 和 歌 を 味 わ い 日 記 を 読 む	【古典】 教材：『万葉集』 『古今和歌集』 日記『土佐日記』「門出」	○	◎	○	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	3	選択等	必修
教科書	「現代の国語」(大修館書店)						
副教材等	「重要頻出漢字リアルマスター」尚文出版「新訂版常用国語便覧」(浜島書店) ノート、プリント、国語辞典、iPad						

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

今年度から新たに始まったこの「現代の国語」は、論理的思考力、相互に交流する力、情報の適切な判断力といった実社会で求められる言語能力を身につけることを目的とした科目です。社会に出た際に通用する国語の力を伸ばしていきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心を持ち、効果的に文字を書いている。	目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・確認テスト ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への応答
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	学ぶ考える／言語と文化	【明日をひらく】 教材： 「考える技術」		○	○	I：何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えようとしている。 II：何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えている。 III：話すこと・聞くことに必要な文の組立てについて理解している。	I,II,III： 行動の観察と確認
		【要点をつかむ】 教材： 「水の東西」	○	○		I：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III：正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III： 行動の観察と確認
1 学期 期末	生命と環境	【論理をとらえる】 教材： 「自然と人間の関係をとおして考える」	○	○		I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III： 行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査
2 学期 中間	自己他者	【情報を比較する】 教材：「空気を読む」 【主張を吟味する】 教材：	○	○		I：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III：正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III： 行動の観察と確認

		「感情とは何か」	○	○	○	I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III : 行動の観察と確認
2 学期 期末	伝える表現する メディア情報	【他者を動かす】 教材： 「どう伝えるか」	○	○	○	I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III : 行動の観察と確認
		【要点をつかむ】 教材： 「動」への変化」	○	○		I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III : 行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査
3 学期	社会 ディベートを行う	【主張を吟味する】 教材： 「贅沢を取り戻す」	○	○		I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III : 行動の観察と確認
		【聞く・話す】 〈ディベートを通して、互いの考えを深めながら、話し方聞き方について学ぶ。〉 教材： 「ディベートをしてみよう」、	○	○	○	I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III : 行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	言語文化	単位数	3	選択等	必修
教科書	『言語文化』（大修館書店）						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』（啓隆社） 『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店） 『古文単語 300』（旺文社）						

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

古文・漢文にふれ、伝統文化を知る楽しさを追究してほしい。古典を自ら読む力を養うため、語彙をつけ、文法、常識の習得にも積極的に取り組んでいこう。先人の「知」「生き方」「文化交流」に触れ、自らの視野を広げていってほしい。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において

I 古典を読むために必要な文語の決まり、訓読の決まり、古文特有の表現などを理解している。

II 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、特色について捉える。

III 当時のならわしについて知り、作者のものの見方、感じ方を読み味わう。特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	古文入門	【古典】 歴史的仮名遣 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 「絵仏師 良秀」 古文動詞の学習	◎	○	○	I 古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現を理解している。 II 「読むこと」において作品の内容や形式について、批判したり、討議したりしている。 III 説話文学に興味を持ち、登場人物の言動から多様な価値観を読み取る。	・ 行動の観察 ・ 記述の確認 ・ 提出物 ・ 小テスト ・ 定期考査
1 学期 期末	文学創作	【近代以降】 『羅生門』 【参考】『今昔物語集』	○	◎	○	I 作品の修辞技法など特徴的な技法と効果について理解している。 II 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 III 作品に興味を持ち、作者の人物像をとらえる。	・ 行動の観察 ・ 記述の確認 ・ 提出物 ・ 小テスト ・ 定期考査
2 学期 中間	物語を読む	【古典】 『伊勢物語』『筒井筒』 古文形容詞・形容動詞	○	◎	○	I 和歌の修辞技法など特徴的な技法と効果について理解している。 II 「読むこと」において文章の種類を踏まえ、内容や構成、展開を的確に捉えている。 III 文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品ごとの特色を理解する	・ 行動の観察 ・ 記述の確認 ・ 提出物 ・ 小テスト ・ 定期考査
2 学期 期末	漢文入門・小説	【古典】 故事成語「蛇足」 訓点、再読文字 『論語』 【近代以降】 『城の崎にて』	◎	○	○	I 我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 II 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの考え方、感じ方を深める。 III 作品に興味を持ち、作者の感覚や人物像を捉える。	・ 行動の観察 ・ 記述の確認 ・ 提出物 ・ 小テスト ・ 定期考査

3 学 期	現 代 詩 歌	【近代以降】 俳句と短歌	○	◎	○	I 韻文、古典を読むために必要な口語、文語の決まり、詩歌、古文特有の表現などを理解している。 II 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、特色について捉える。 III 当時のならわしについて知り、作者のものの見方、感じ方を読み味わう。	・ 行動の観察 ・ 記述の確認 ・ 提出物 ・ 小テスト ・ 定期考査
	和 歌 ・ 随 筆	【古典】 『万葉集』 『古今和歌集』 『枕草子』 「雪のいと高う降りたるを」 古文助動詞	○	◎	○		

2024 年度 相愛高等学校 02 1 年 普通科特進コース シラバス

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2	選択等	必須
教科書	「現代の国語」(大修館書店)						
副教材等	「常用国語便覧」(浜島書店) 「重要頻出漢字リアルマスター」(尚文出版)						

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題をつかみ、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成・展開を工夫する能力を養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心を持ち、効果的に文字を書いている。	目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への応答 ・ 疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	学ぶ考える／言語と文化	【明日をひらく】 教材： 「考える技術」		○	○	I：何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えている。 II：何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えている。 III：話すこと・聞くことに必要な文の組立てについて理解している。	I, II, III： 行動の観察と確認
		【要点をつかむ】 教材： 「水の東西」	○	○		I：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 II：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III：正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I, II, III： 行動の観察と確認
1 学期 期末	生命と環境	【論理をとらえる】 教材： 「自然と人間の関係をとおして考える」	○	○		I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I, II, III： 行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査
2 学期 中間 言語	自己他者	【情報を比較する】 教材：「空気を読む」 【主張を吟味する】 教材：	○	○		I：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 II：考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III：正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I, II, III： 行動の観察と確認

文化		「感情とは何か」	○	○	○	I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III : 行動の観察と確認
2 学 期 期 末	伝える表現する	【他者を動かす】 教材： 「どう伝えるか」	○	○	○	I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III : 行動の観察と確認
	メディア情報	【要点をつかむ】 教材： 「動」への変化」	○	○		I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III : 行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査
3 学 期	社会	【主張を吟味する】 教材： 「贅沢を取り戻す」	○	○		I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III : 行動の観察と確認
	ディベートを行う	【聞く・話す】 〈ディベートを通して、互いの考えを深めながら、話し方聞き方について学ぶ。〉 教材： 「ディベートをしてみよう」、	○	○	○	I 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 II 考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 III 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	I,II,III : 行動の観察と確認 記述の確認及び定期考査

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 特進コース シラバス

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2	選択等	必修
教科書	『言語文化』（大修館書店）						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』（啓隆社）、『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店） 『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社）、『古文単語 300』（旺文社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房）						

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題を掴むこと、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することも能力として養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ、相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	古文入門	【古典】 歴史的仮名遣い、品詞 『宇治拾遺物語』 「兄のそら寝」 『枕草子』「雪のいと高 う降りたるを」 用言の学習	◎	○	○	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 作品の成立時代や背景を理解し、文章に描れている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
1 学期 期末	文学創作	【近代以降】 『羅生門』をもとに古典と現代文学の繋がりを考える 【参考】『今昔物語集』	○	◎	○	物事の様子や場面などを、読み手が言葉をしてありありと想像できるよう描いている。 元となった古文と作品を比較し、作者の意図を理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 中間	物語を読む	【古典】 助動詞の学習 『伊勢物語』 「あづま下り」 俳句、短歌	○	◎	○	文章に描かれている情景を、文や文章、語などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 期末	漢文入門・小説	【古典】 教材： 故事成語「蛇足」 思想『論語』 訓点、再読文字 『論語』 【近代以降】 『城の崎にて』	◎	○	○	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれてきたことに気付いている。 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などが果たしている効果に気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	短詩系文学を味わう	【近代以降】 〈俳句と短歌の代表的な作品を鑑賞する〉 教材： 教科書に掲載された俳句と短歌	○	◎	○	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について、理解している。	・行動の観察 ・記述の確認
	古文の和歌を味わい日記を読む	【古典】 教材：『万葉集』 『古今和歌集』 日記『土佐日記』『門出』	○	◎	○	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・提出物 ・小テスト ・定期考査

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 特進コース シラバス

教科	国語	科目	国語演習	単位数	2	選択等	特進
教科書	指定なし						
副教材等	現代文問題 古典問題						

1 学習の到達目標

さまざまな文章・資料に触れながら、各文章・資料の書き手の意図を正確に理解する。また自身の意図を他者に正確に伝達できるようになる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

それぞれの文章の特徴をつかみ、読み解いていくため自発的に学ぶ姿勢を身につけよう。読み解いたものを、他者に分かりやすく伝えるため、語彙力や基礎知識を増やし、表現技法を学び活用していこう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・定期考査 ・レポート ・発問への応答	・学習状況 ・定期考査 ・レポート ・発問への応答	・学習状況 ・レポート ・発問への応答
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
		I	II	III		

1 学 期 中 間		現代文読解の基本 文語文法導入 動詞の活用	○ ○	○ ○	○ 	I 古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現を理解している。 II 文章を的確に読もうとする。 キーワードやキーセンテンスを見つけ出すことができる。 III 口語文法と文語文法の共通点や相違点を認識し、文語文法の知識を習得する。	・確認テスト ・定期考査 ・発問への応答
1 学 期 期 末		ベネッセ総合学力テスト 7月過去問 現代文読解の基本 (論理的文章・ 文学的文章) 文語文法 形容詞・形容動詞の活用	○ ○	○ ○	○ 	I 漢字や単語の知識を吸収しようとする。 II 文章を的確に読もうとする。 各種文章の特性を知り、客観的に分析して読むことができる。 III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。 I 文語文法の知識を習得する。 II 注と関連させて本文を読むことができる。 III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・定期考査
2 学 期 中 間		到達度テスト【秋】解説 現代文読解の基本 実用的文章 日本の伝統的な文化・習慣について学ぶ 古典助動詞・漢文句形	○ ○	○ ○	○ ○	I 既知の事実と新たな知識を連動して考えることができる。 II 各文章・資料の特性を知り、読み比べができる。 III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。 I 文語文法の知識を習得する。 II 伝統的な文化・習慣と現代の文化・習慣との相違点と相似点を見つけることができる。 III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。	・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・定期考査
2 学 期 期 末		ベネッセ総合学力テスト 11月過去問解説 古典助動詞・漢文句形	○ ○	○ ○	○ ○	I 漢字や単語の知識を学び、運用しようとする。 II 文章を的確に読もうとする。 文章全体構成を意識して読むことができる。 III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・定期考査

						I 文語文法の知識を習得する。 II 伝統的な文化・習慣と現代の文化・習慣の相違点と相似点を、他者と共有することができる。 III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。	
3 学 期		ベネッセ総合学力テスト 1 月過去問解説 古典問題演習	○	○	○	I 漢字や単語の知識を深め、運用しようとする。 II 文章を的確に読もうとする。 各文章について客観的に分析し、他者と共有することができる。 III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・定期考査

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	地歴科	科目	地理総合	単位数	2	選択等	必修
教科書	帝国書院『新地理総合』						
副教材等	帝国書院『新地理総合ノート』 帝国書院『新詳高等地図』						

1 学習の到達目標

地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って各地域の特色を考察・理解させることにより、地理的な見方や考え方の基礎を養う。また、地域の諸事情を空間的な広がりの中でとらえ、諸条件や人間の活動と関連づけて考察させる。地域の特色の特殊性と一般的な共通性、及びそれらが諸条件によって変容することを理解する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

私たちが暮らす世界は、情報化・高齢化など日々変化していています。その変化にうまく対応するために新しい環境を受け入れる意識が必要になります。そのため、世界の地域の特色をしっかりとらえ、さまざまな事柄を関連づけて学習できるようにしていきましょう。地理は日常生活に密接に関わっている教科なので、受験勉強だけでなく日常生活とつなげて勉強していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	現代の生活に関する諸事象について、自然や人間の相互関係の視野から捉え、現代的な課題について理解する。 諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係に着目して、多面的に考察し地理的な課題解決に向けたなどを説明したり、論議したりしている	世界や日本の地理にかかわる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト 宿題テスト	定期テスト レポート 授業中の発表内容	定期テスト レポート 授業中の取り組み

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	地 図 で と ら え る 現 代	地球上の位置と時差	○		○	地球上の位置の違いによって私達の生活にどのような影響があるか理解する。 時差と生活がどのように結びついているか理解する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協議 授業中の発表
		地図の役割と種類	○		○	さまざまな地図や地理情報システムが存在していることを理解する。	
		現代世界の国家と領域	○	○	○	国家の領域や国境がどのように定まっているか理解する。 日本の位置や領土問題について自分の考えを表現している。	
		グローバル化する世界	○		○	グローバル化に伴い貿易・交通・通信・観光など世界の国々を結びつける要素やその変化などを理解する。	
1 学 期 期 末	国 際 理 解 と 国 際 協 力	世界の地形と人々の生活	○		○	世界の人々がさまざまな地形とどのように関わっているのかを理解する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協議 授業中の発表

		世界の気候と人々の生活	○	○	○	世界の人々の生活が気候要因とどのように関わっているのかを理解する。それぞれの気候帯の特徴や生活様式について調べ、表現する。	
2 学期 中間	国際理解と国際協力	世界の言語・宗教と人々の生活	○	○	○	言語や宗教が人々の生活に与えている影響について理解する。 宗教の特徴による生活様式の変化について調べ、その違いをまとめて発表する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協議 授業中の発表
		歴史的背景と人々の生活	○		○	生活文化というものは、その地域で起きた出来事の積み重ねによって変化していることを理解する。 旧宗主国との関係について理解する。	
2 学期 期末	国際理解と国際協力	世界の産業と人々の生活	○		○	産業の発展が人々の生活にどのような影響を与えたのかを理解する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協議 授業中の発表
		地球的課題と国際協力	○	○	○	現代の地域的な課題を理解し、その背景に何があるのか、課題の解決に向けて何ができるのか考え、表現する	
3 学期	持続可能な地域づくりと私たち	自然環境と防災	○	○	○	世界中で発生する自然災害は、その地域の地形や気候といった自然環境と密接に結びついていることを理解する。 日本で起きる災害の発生に備え各自で行える取り組みについて考え発表する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協議 授業中の発表

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	地歴科	科目	地理総合	単位数	2	選択等	必修
教科書	帝国書院『新地理総合』						
副教材等	帝国書院『新地理総合ノート』 帝国書院『新詳高等地図』						

1 学習の到達目標

地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って各地域の特色を考察・理解させることにより、地理的な見方や考え方の基礎を養う。また、地域の諸事情を空間的な広がりの中でとらえ、諸条件や人間の活動と関連づけて考察させる。地域の特色の特殊性と一般的な共通性、及びそれらが諸条件によって変容することを理解する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

私たちが暮らす世界は、情報化・高齢化など日々変化していています。その変化にうまく対応するために新しい環境を受け入れる意識が必要になります。そのため、世界の地域の特色をしっかりとらえ、さまざまな事柄を関連づけて学習できるようにしていきましょう。地理は日常生活に密接に関わっている教科なので、受験勉強だけでなく日常生活とつなげて勉強していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	現代の生活に関する諸事象について、自然や人間の相互関係の視野から捉え、現代的な課題について理解する。 諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係に着目して、多面的に考察し地理的な課題解決に向けたなどを説明したり、論議したりしている	世界や日本の地理にかかわる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト 宿題テスト	定期テスト レポート 授業中の発表内容	定期テスト レポート 授業中の取り組み
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	地 図 で と ら え る 現 代	地球上の位置と時差	○		○	地球上の位置の違いによって私達の生活にどのような影響があるか理解する。 時差と生活がどのように結びついているか理解する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協 議 授業中の発 表
		地図の役割と種類	○		○	さまざまな地図や地理情報システムが存在していることを理解する。	
		現代世界の国家と領域	○	○	○	国家の領域や国境がどのように定まっているか理解する。 日本の位置や領土問題について自分の考えを表現している。	
		グローバル化する世界	○		○	グローバル化に伴い貿易・交通・通信・観光など世界の国々を結びつける要素やその変化などを理解する。	
1 学 期 期 末	国 際 理 解 と 国 際 協 力	世界の地形と人々の生活	○		○	世界の人々がさまざまな地形とどのように関わっているのかを理解する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協 議 授業中の発 表

		世界の気候と人々の生活	○	○	○	世界の人々の生活が気候要因とどのように関わっているのかを理解する。それぞれの気候帯の特徴や生活様式について調べ、表現する。	
2 学期 中間	国際理解と国際協力	世界の言語・宗教と人々の生活	○	○	○	言語や宗教が人々の生活に与えている影響について理解する。 宗教の特徴による生活様式の変化について調べ、その違いをまとめて発表する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協議 授業中の発表
		歴史的背景と人々の生活	○		○	生活文化というものは、その地域で起きた出来事の積み重ねによって変化していることを理解する。 旧宗主国との関係について理解する。	
2 学期 期末	国際理解と国際協力	世界の産業と人々の生活	○		○	産業の発展が人々の生活にどのような影響を与えたのかを理解する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協議 授業中の発表
		地球的課題と国際協力	○	○	○	現代の地域的な課題を理解し、その背景に何があるのか、課題の解決に向けて何ができるのか考え、表現する	
3 学期	持続可能な地域づくりと私たち	自然環境と防災	○	○	○	世界中で発生する自然災害は、その地域の地形や気候といった自然環境と密接に結びついていることを理解する。 日本で起きる災害の発生に備え各自で行える取り組みについて考え発表する。	定期テスト 小テスト レポート グループ協議 授業中の発表

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3	選択等	
教科書	高等学校 新編数学 I (数研出版)						
副教材等	教科書傍用 3TRIAL 数学 I +A (数研出版)						

1 学習の到達目標

数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することをめざす。数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析においては、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化し、数学的な解釈や表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校での既習事項を確認しつつ、基礎から応用まで実力をつけましょう。
 数学的な物の考え方や、身近な事柄を数学的事象と捉えて、論理的に考察する力を養いましょう。
 数学を学ぶ上で、基礎を固めることが重要です。分からないまま先に進んでも、基礎が出来ていないと思考力や正確な判断力が養えません。実力に合わせて、確実に理解を深めていきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法	定期考査 小テスト 課題考査	定期考査 小テスト 課題考査	課題レポート 授業中の発表や態度
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	式の計算・実数	・多項式の四則演算 ・因数分解 ・実数 ・根号を含む式の計算	○	○	○	式を、目的に応じて 1 つの文字に着目して整理したり、1 つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と 1 対 1 に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。	課題考査 定期考査 小テスト レポート
1 学期 期末	1 次不等式・2 次関数とグラフ	・不等式の性質 ・1 次不等式 ・絶対値を含む方程式・不等式 ・関数とグラフ ・2 次関数とグラフ	○	○	○	不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に 1 次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に 1 次不等式を活用したりする力を培う。 2 次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2 次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。	定期考査 小テスト 発表の様子

2 学 期 中 間	2 次 関 数 の 値 の 変 化 ・ 2 次 方 程 式 と 2 次 不 等 式	・2次関数の最大・最小 ・2次関数の決定 ・2次方程式 ・2次関数のグラフとx軸の位置関係 ・2次不等式	○	○	○	2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	課題 定期 小テ スト レポート
2 学 期 期 末	三 角 比	・三角比 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張 ・正弦定理 ・余弦定理	○	○	○	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。	定期 小テ スト 発表の様子
3 学 期	三 角 形 へ の 応 用 ・	・正弦定理と余弦定理の応用 ・三角形の面積 ・空間図形への応用 ・データの整理 ・データの代表値 ・データの散らばりと	○	○	○	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法な	課題 定期 レポ ート

	デ ー タ の 分 析	四分位数 ・分散と標準偏差 ・2 つの変量の間関係			どを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。	
--	----------------------------	---------------------------------	--	--	--	--

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3	選択等	
教科書	高等学校 新編数学 I (数研出版)						
副教材等	教科書傍用 3TRIAL 数学 I +A (数研出版)						

1 学習の到達目標

数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することをめざす。数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析においては、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化し、数学的な解釈や表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校での既習事項を確認しつつ、基礎から応用まで実力をつけましょう。
 数学的な物の考え方や、身近な事柄を数学的事象と捉えて、論理的に考察する力を養いましょう。
 数学を学ぶ上で、基礎を固めることが重要です。分からないまま先に進んでも、基礎が出来ていないと思考力や正確な判断力が養えません。実力に合わせて、確実に理解を深めていきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法	定期考査 小テスト 課題考査	定期考査 小テスト 課題考査	課題レポート 授業中の発表や態度
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	式の計算・実数	・多項式の四則演算 ・因数分解 ・実数 ・根号を含む式の計算	○	○	○	式を、目的に応じて 1 つの文字に着目して整理したり、1 つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と 1 対 1 に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。	課題考査 定期考査 小テスト レポート
1 学期 期末	1 次不等式・2 次関数と	・不等式の性質 ・1 次不等式 ・絶対値を含む方程式・不等式 ・関数とグラフ ・2 次関数とグラフ	○	○	○	不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に 1 次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に 1 次不等式を活用したりする力を培う。 2 次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2 次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。	定期考査 小テスト 発表の様子

	グ ラ フ						
2 学 期 中 間	2 次 関 数 の 値 の 変 化 ・ 2 次 方 程 式 と 2 次 不 等 式	・2次関数の最大・最小 ・2次関数の決定 ・2次方程式 ・2次関数のグラフとx軸の位置関係 ・2次不等式	○	○	○	2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	課題 定期 小テスト レポート
2 学 期 期 末	三 角 比	・三角比 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張 ・正弦定理 ・余弦定理	○	○	○	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。	定期 小テスト 発表の様子
3 学 期	三 角 形 へ の	・正弦定理と余弦定理の応用 ・三角形の面積 ・空間図形への応用	○	○	○	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。	課題 定期 レポート

	応 用 デ ー タ の 分 析	・データの整理 ・データの代表値 ・データの散らばりと四分位数 ・分散と標準偏差 ・2つの変量の間関係			データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力，目的に応じて複数の種類のデータを収集し，適切な統計量やグラフ，手法などを選択して分析を行い，データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力，不確実な事象の起こりやすさに着目し，主張の妥当性について，実験などを通して判断したり，批判的に考察したりする力などを養う。	
--	--------------------------------------	---	--	--	---	--

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	数学	科目	数学 A	単位数	2	選択等	必修
教科書	高等学校 新編数学 A (数研出版)						
副教材等	教科書傍用 3TRIAL 数学 I +A (数研出版) スタディサプリ						

1 学習の到達目標

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業の内容の理解を深めましょう。疑問点や分からないことがあれば、そのままにせず、質問しましょう。教科書をしっかり読むことを通じて、予習・復習することを習慣として身に付けてください。宿題に取り組む際には、理解できているかを意識しながら丁寧に解きましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト 課題考査	定期考査 小テスト 課題考査	課題レポート 授業中の発表や態度

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期 中間	第1章 場合の数と確率	①場合の数 ・集合の要素の個数 ・場合の数	○	○	○	I ○和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。 ○和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 II ○ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。 ○場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 III ○集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 ○道順の数え方に興味を示し、樹形図、和の法則や対称性などによる場合の数の数え方に関心をもつ。	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
	第1章 場合の数と確率	①場合の数 ・順列 ・組み合わせ	○	○	○	I ○順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。 ○順列、円順列、重複順列の公式を理解し、活用することができる。 ○組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。また、組合せの公式を理解し、活用することができる。 II ○既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 ○既知である順列の総数をもとにして、	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

		②確率 ・事象と確率 ・確率の基本性質	○	○	○	組合せの総数を考察することができる。 Ⅲ ○既知である積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。 ○順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。 ○組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。 Ⅰ ○確率の意味、試行や事象の定義を理解している。 ○確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができる Ⅱ ○試行の結果を事象として捉え、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ○集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。 ○加法定理などを利用して、複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。	
2学期中間	第1章 場合の数と確率	②確率 ・独立な試行と確率 ・条件付き確率 ・期待値	○	○	○	Ⅰ ○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 ○複雑な反復試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。 ○期待値の定義を理解し、期待値を求めることができる。 Ⅱ ○独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 ○既習の確率の知識を利用して、反復試行の確率について考察することができる。 Ⅲ ○独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。 ○具体的事象について、反復試行の確率	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物

						を、興味をもって調べようとする。 ○条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。	
2 学 期 期 末	第 2 章 図 形 の 性 質	①平面図形 ・ 三角形の辺の比 ・ 三角形の外心・内心・重心 ・ チェバの定理・メネラウスの定理 ・ 円に内接する四角形 ・ 円と直線	○	○	○	I ○線分の内分・外分、平行線と比などの基本事項を理解している。 ○三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 ○チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比を求める問題に活用できる。 ○円の基本的な性質を理解している。 ○円の接線の性質を利用して、線分の長さを求めることができる。 II ○図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。また、適切な補助線を引いて考察することができる。 ○チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。 ○円に内接する四角形の性質について、論理的に考察することができる。 ○円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 III ○線分を内分・外分する点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。 ○三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ○チェバの定理、メネラウスの定理に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ○相似を利用した方べきの定理の導き方に興味・関心をもつ。	小テスト 定期考査 レポート課題 提出物
学	第	①平面図形	○	○	○	I	小テスト

年 末	2 章 図 形 の 性 質	・2つの円 ・作図			○2つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。 ○線分の内分点・外分点の作図や、b/a や ab の長さをもつ線分の作図ができる。 II ○2つの円を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 ○平行線と線分の比の性質を利用して、内分点・外分点の作図の方法や、b/a や ab の長さをもつ線分の作図の方法を考察することができる。 III ○2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。 ○数学で扱う作図と、日常において図形をかくことでは、何が違うか考えてみようとする。	定期考査 レポート課題 提出物
		②空間図形 ・直線と平面 ・空間図形と多面体	○	○	○ I ○空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。 ○正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。 ○正多面体どうしの関係を利用して、正多面体の体積を求めることができる。 II ○空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、与えられた条件から考察することができる。 ○正多面体の満たす条件を理解し、正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができる。 III ○空間における図形の位置関係について、積極的に考えてみようとする。	

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 特進コース シラバス

教科	数学	科目	数学 I	単位数	4	選択等	必修
教科書	数研出版 高等学校数学 I 高等学校数学 II (数研出版)						
副教材等	4 プロセス 数学 I + A、数学 II + B (数研出版) チャート式 解法と演習 数学 I + A、数学 II + B (数研出版) スタディサプリ						

1 学習の到達目標

数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析、いろいろな式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

授業に集中して、授業中にわかる、できるようになりましょう。
 自分で考えてもわからないところ、答えが合わないところはすぐに質問しましょう。
 宿題は必ずしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

		力を養う。	
評価方法	授業中のテスト 定期考査	授業中のテスト 定期考査 レポート課題	提出物 レポート課題
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	数と式	式の計算 実数	○	○	○	I ○単項式や多項式、同類項、次数など式に関する用語を理解している。 ・例 1～3、練習 1～4 ○多項式について、同類項をまとめたり、ある文字に着目して降べきの順に整理したりすることができる。 ・例 4～5、練習 5～6 ○多項式の加法、減法の計算ができる。 ・例 6～7、練習 7～8 ○指数法則を理解し、多項式の乗法の計算ができる。 ・例 8～10、練習 9～11 ○展開の公式を利用できる。 ・例 11～12、練習 12～13 ○式の形の特徴に着目して変形し、展開の公式が適用できるようにすることができる。 ・例題 1～2、練習 14～15 ○因数分解の公式を利用できる。 ・例 14～15、例題 4、練習 18～20 ○因数分解を行うのに、文字のおき換えを利用することができる。 ・例題 5、練習 21 ○有理数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を理解している。 ・p.26 ○循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表すことができる。	授業内のテスト 定期考査 提出物 レポート課題

					・練習 25 ○循環小数を分数で表すことができる。 ・例 16、練習 26 ○有理数、無理数、実数の定義を理解し、それぞれの範囲での四則計算の可能性について理解している。 ・小項目 A、B、C ○絶対値の意味と記号表示を理解している。 ・例 18～19、練習 28～29 ○平方根の意味・性質を理解している。 ・例 20、練習 30 ○根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の有理化ができる。 ・例 21～23、例題 6、練習 31～35 II ○式の展開は分配法則を用いると必ずできることを理解している。 ・例 9～10、練習 10～11 ○式を 1 つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。 ・例題 1～2、練習 14～15 ○複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。 ・応用例題 1～2、練習 22～23 ○式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が適用できるようにすることができる。 ・応用例題 3、練習 24 ○四則計算を可能にするために数が拡張されてきたことを理解している。 ・小項目 B、C ○実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また、実数の大小関係と数直線に関係づけて考察することができる。 ・小項目 D ○数直線上の 2 点間の距離を絶対値を用いて考えることができる。 ・p.30 研究 ○根号を含む式の計算について、一般化して考えられる。 ・p.31、32 ○対称式の値を求めるのに、分母の有理化や、式の変形を利用することができる。 ・応用例題 4、練習 36～37 III ○単項式、多項式とその整理の仕方に	
--	--	--	--	--	--	--

					関心をもち、考察しようとする。 ・小項目 A、B ○多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに関心をもち、考察しようとする。 小項目 B ○式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。 ・例題 5、応用例題 1～3、練習 21～24 ○展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 ・小項目 A、B、C ○今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。 ・小項目 A、B ○根号を含む式の計算公式を証明しようとする。 ・p.32 ○対称式の値の求め方に興味を示し、自ら考察しようとする。 ・応用例題 4、練習 36～37		
1 学 期 期 末	数 と 式 集 合 と 命 題	1 次不等式 集合と命題	○	○	○	I ○不等号の意味を理解し、数量の大小関係を式で表すことができる。 ・例 24、練習 38 ○不等式の性質を理解している。 ・例 25、練習 39～41 ○不等式における解の意味を理解し、1 次不等式を解くことができる。 ・例 26～28、例題 7、練習 42～43 ○連立不等式の意味を理解し、連立 1 次不等式を解くことができる。 ・例 29、例題 8、練習 44 ○絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。 ・例 30、例題 9、練習 50～51 ○集合とその表し方を理解している。また、2 つの集合の関係を、記号を用いて表すことができる。 ・例 2～4、練習 2～3 ○空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。 ・例 5～7、練習 4～7 ○ド・モルガンの法則を理解している。 ・p.57 ○命題の真偽、反例の意味を理解し、集合の包含関係や反例を調べることで、命題の真偽を決定することができる。	授業内のテスト 定期考査 提出物 レポート課題

					・例 8、練習 9～11 ○必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解している。 ・例 9～10、練習 12～14 ○条件の否定、ド・モルガンの法則を理解しており、複雑な条件の否定が求められる。 ・例 11～12、練習 15～16 ○命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。 ・例 13、練習 17 ○対偶による証明法や背理法のしくみを理解している。 ・例題 1～2、練習 18～19、 p.68 研究 Ⅱ ○条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。 ・例 1、練習 1 ○ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。 ・ p.54～57 ○命題の真偽を、集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。 ・小項目 C ○命題が偽であることを示すには、反例を 1 つあげればよいことが理解できている。 ・例 8、練習 11 ○命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで、命題を証明することができる。 ・例題 1～2、練習 18～19、 p.68 研究 Ⅲ ○集合について、それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとする。 ・小項目 A、B、C、D、E ○3 つの集合についても、和集合、共通部分について考察しようとする。 ・ p.57 研究 ○命題と条件の違いや、命題と集合との関係について、積極的に理解しようとする。 ・小項目 A、B、C ○条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。 ・小項目 C	
--	--	--	--	--	---	--

					○命題とその対偶の真偽の関係について考察しようとする。 ・小項目 B ○直接証明法では難しい命題も、対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心を持ち、実際に証明しようとする。 ・小項目 B、C	
2 学 期 中 間	2 次 関 数	2 次関数	○	○	○ ○$y = f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解しており、用いることができる。 ・例 3、練習 1 ○定義域に制限がある 1 次関数のグラフがかけて、値域が求められる。 ・例題 1、練習 4～5 ○$y = ax^2$、$y = ax^2 + q$、$y = a(x - p)^2$、$y = a(x - p)^2 + q$ の表記について、グラフの平行移動とともに理解している。 ・p.78～82 ○$ax^2 + bx + c$ を $a(x - p)^2 + q$ の形に変形できる。 ・例 7、練習 10 ○平方完成を利用して、2 次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。 ・例題 2、練習 11 ○放物線の平行移動や対称移動の一般公式を活用して、移動後の放物線の方程式を求めることができる。 ・p.86、87 研究 ○2 次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。 ・p.89、練習 13 ○2 次関数を $y = a(x - p)^2 + q$ の形に式変形して、最大値、最小値を求めることができる。 ・例題 3、練習 14 ○2 次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値を求めることができる。 ・p.91～94 ○2 次関数の決定において、与えられた条件を関数の式に表現し、2 次関数を決定することができる。 ・例題 5～6、練習 20、22 ○連立 3 元 1 次方程式の解き方を理解している。 ・例 8、練習 21 ○2 次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。 ・例 9～11、練習 23～25	授業内のテスト 定期考査 提出物 レポート課題

					○2 次方程式において、判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ・例 12、練習 26 ○2 次関数のグラフと x 軸の共有点の座標が求められる。 ・例 13～14、練習 29 ○2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数を求めることができる。 ・例 15、練習 30 ○2 次不等式を解くことができる。 ・練習 33～38 ○2 次の連立不等式を解くことができる。 ・例題 12、練習 41～42 ○2 次不等式を利用する応用問題を解くことができる。 ・応用例題 9～10、練習 43～44 Ⅱ ○2 つの数量の関係を関数式で表現できる。 ・例 1、2、4、練習 2 ○2 次関数の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 ・小項目 B、C、D ○2 次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフを、$y = ax^2$ のグラフをもとに考察することができる。 ・p.83～84 ○放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して、考察することができる。 ・応用例題 1、練習 12 ○2 次関数の値の変化をグラフから考察することができる。 ・p.89 ○具体的な事象の最大・最小の問題を、2 次関数を用いて表現し、処理することができる。 ・応用例題 5、練習 19 ○定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。 ・応用例題 3～4、練習 17～18 ○2 次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 ・例題 5～6、練習 20、22 ○2 次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 ・例題 7～8、練習 27～28 ○2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を、$D = b^2 - 4ac$ の符号から考察することができる。	
--	--	--	--	--	--	--

					・応用例題 6、練習 31 ○2 次関数の値の符号と 2 次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。 ・例 17、19、20 ○2 次式が一定の符号をとるための条件を、グラフと関連させて考察することができる。 ・応用例題 8、練習 40 Ⅲ○日常生活に見られる関数の具体例を見つけて考察しようとする。 ・例 1、2、4 ○座標平面上の点と象限について、理解を深めようとする。 ・ p.76 ○放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとする。 ・小項目 A ○一般の 2 次関数 $y = ax^2 + bx + c$ について、頂点、軸の式を考察しようとする。 ・ p.85 ○放物線の平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。 ・ p.86、87 研究 ○日常生活における具体的な事象の考察に、2 次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。 ・応用例題 5、練習 19 ○2 次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。 ・ p.96～98 ○2 次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。 ・例 10、練習 24 ○1 次の係数が $2b'$ である 2 次方程式の解の公式を積極的に利用しようとする。 ・例 11、練習 25 ○2 次関数のグラフと x 軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。 ・ p.105～107 ○1 次関数と 1 次不等式の関係から、2 次不等式の場合を考えようとする。 ・例 16～17 ○2 次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。 ・ p.113～114 ○身近な問題を 2 次不等式で解決しようとする。 ・応用例題 9、練習 43	
--	--	--	--	--	---	--

2 学期 期末	図形と計量 データの分析	図形と計量 データの分析	○	○	○	I ○直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 ・例 1～2、練習 1～2 ○三角比の定義から、辺の長さを求める関係式を考察することができる。 ・例 3、練習 4 ○直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できる。 ・例題 1、応用例題 1、練習 5～6 ○三角比の相互関係を利用して、1 つの値から残りの値が求められる。 ・例題 2～3、練習 7～8 ○$\sin(90^\circ - \theta) = \cos \theta$ などの公式が利用できる。 ・例 4、練習 9～10 ○直角三角形の斜辺の長さを適当に変えて、三角比を考察することができる。 ・例 5、練習 11 ○$\sin(180^\circ - \theta) = \sin \theta$ などの公式が利用できる。 ・例 6、練習 12 ○$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ において、三角比の値から θ を求めることができる。また、1 つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。 ・例 7～8、例題 4、練習 13～16 ○正弦定理における $A=B=C=D$ の形の関係式を適切に処理できる。 ・p.148～149 ○正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。 ・例 10、例題 5、練習 18～20 ○余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。 ・例題 6～7、練習 23、25 ○余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・例題 8、練習 27 ○三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 ・例 11、練習 29 ○3 辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。 ・例題 9、練習 30 ○3 辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。 ・応用例題 4、練習 32 ○三角比を測量に応用できる。 ・応用例題 5、練習 33	授業内のテスト 定期考査 提出物 レポート課題
---------	-----------------	-----------------	---	---	---	--	----------------------------------

					○正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。 ・応用例題 6、練習 34 ○三角比を利用して、正四面体などの体積を求めることができる。 ・p.163 研究 ○度数分布表、ヒストグラムについて理解している。 ・練習 1～2 ○平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ・例 1～3、練習 3～5 ○範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。また、データの散らばりを比較することができる。 ・例 4～6、練習 6～7 ○箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 ・例 7、練習 8 ○ヒストグラムと箱ひげ図の関係について理解している。 ・小項目 D ○偏差の定義とその意味を理解している。 ・p.180 ○分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。 ・例 8～10、練習 10～11 ○相関係数の定義とその意味を理解し、定義にしたがって求めることができる。 ・p.187～188、例 11、練習 13～14 ○相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解している。 ・p.188 ○分割表の意味を理解し、数値の割合を計算して新たな表を作成することができる。 ・例 12、練習 15 ○仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。 ・例 12、練習 16 Ⅱ ○三角比の表から $\sin\theta$、$\cos\theta$、$\tan\theta$ の値を読み取ることができる。 ・練習 3	
--	--	--	--	--	---	--

					○具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。 ・ 例題 1、応用例題 1、練習 5～6 ○三平方の定理をもとに三角比の相互関係を考察することができる。 ・ p.134 ○既知である鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考察することができる。 ・ p.137～139 ○直線と x 軸とのなす角を、三角比を用いて考察することができる。 ・ 例 9、練習 17 ○三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係式として、正弦定理を導くことができる。 ・ p.147 ○正弦定理を測量に応用できる。 ・ 練習 21 ○三角形の辺と角の間に成り立つ関係式として、余弦定理を導くことができる。 ・ p.150、練習 22 ○三角形の辺の長さや角の大きさと余弦定理との関係を考察することができる。 ・ p.155 ○正弦定理を $a : b : c = \sin A : \sin B : \sin C$ としてとらえ、三角形の角の大きさについて考察することができる。 ・ 応用例題 2、練習 28 ○三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。 ・ p.156 ○三角形の面積を、決定条件である 2 辺とその間の角または 3 辺から求めることができる。 ・ 例 11、例題 9、練習 29～30 ○円に内接する四角形の面積を求める方法を考察することができる。	
--	--	--	--	--	--	--

					・応用例題 3、練習 31 ○空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。 ・応用例題 5～6、練習 33～34 ○データの分布の仕方によっては、代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。 ・小項目 C ○データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 ・小項目 A、B ○データの中に他の値から極端にかけ離れた外れ値が含まれる場合について、外れ値の背景を探ることの利点を考察することができる。 ・小項目 E ○外れ値を見出す意義を理解し、外れ値の統計量への影響について考察することができる。 ・小項目 E ○変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができる ・p.183～184 研究 ○散布図を作成し、2 つの変量の間的相关を考察することができる。 ・p.185～186、練習 12 ○データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができる。 ・小項目 A～C ○複数のデータを、散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 ・小項目 A～E ○不確実な事象の起こりやすさに着目	
--	--	--	--	--	--	--

					し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批判的に考察したりすることができる。 ・小項目 A Ⅲ○日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとする。 ・例題 1、応用例題 1、練習 5～6 ○三角比の相互関係を調べようとする。 ・ p.134 ○これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 ・小項目 A、B ○三角比が与えられたときのθを求める際に、図を積極的に利用しようとする。 ・例 7～8、練習 13～14 ○正弦定理の図形的意味を考察する。また、三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。 ・ p.147 ○余弦定理の図形的意味を考察する。また、三平方の定理をもとに余弦定理を導こうとする。 ・ p.150、練習 22 ○三角形の解法について興味を示し、$\sin 75^\circ$なども求めようとする。 ・例題 2、練習 27 ○三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。 ・ p.159 ○日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。 ・応用例題 5、練習 33 ○データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 ・小項目 A、B ○身近な統計における代表値の意味に	
--	--	--	--	--	--	--

					ついて考察しようとする。 ・小項目 A～C ○データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。 ・小項目 A、B ○変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとする。 ・p.183～184 研究 ○相関の強弱を数値化する方法を考察しようとする。 ・小項目 C ○相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。 ・小項目 D ○身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。 ・小項目 A	
3 学期	式と証明 複素数と方程式	式と証明 複素数と方程式	○	○	I ○3 次式の展開の公式を利用することができる。 ・例 1～2、練習 1、3 ○3 次式の因数分解の公式を利用することができる。 ・例 3、練習 4 ○式の形に着目して変形し、3 次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。 ・例題 1、練習 5 ○『$(a+b)^n$』の展開式からパスカルの三角形を導き、パスカルの三角形の性質を理解する。 ・練習 6～7 ○二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ・例 4、例題 2、練習 8～9 ○二項定理を 3 項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 ・応用例題 1、練習 11	授業内のテスト 定期考査 提出物 レポート課題

					○多項式の割り算の計算方法を理解している。 ・ 例題 3、練習 12 ○割り算で成り立つ等式を理解し、利用することができる。 ・ 例題 4、練習 13 ○2 種類以上の文字を含む多項式の割り算を行うことができる。 ・ 応用例題 2、練習 14 ○分数式の約分、四則計算ができる。 ・ 例 5～8、練習 15～18 ○分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式の形にして表現することができる。 ・ 例 6～8、練習 16～18 ○繁分数式を簡単にすることができる。 ・ 例 9、練習 19 ○恒等式と方程式の違いを理解している。 ・ 例 10、練習 20 ○恒等式となるように、係数を決定することができる。 ・ 例題 5～6、練習 21～22 ○分数式の恒等式の分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。 ・ 例題 6、練習 22 ○恒等式 $A = B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。 ・ 例題 7、練習 23 ○$A = B$ と $A - B = 0$ が同値であることを利用して、等式を証明することができる。 ・ 例題 8、練習 24 ○比例式を $=k$ とおいて処理することができる。 ・ 応用例題 3、練習 26 ○実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。	
--	--	--	--	--	---	--

					・ 例 11 ○平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ・ 例題 11、練習 30 ○絶対値の性質を利用して、絶対値を含む不等式を証明することができる。 ・ 応用例題 4、練習 31 ○相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ・ 例題 12、練習 32 ○複素数、複素数の相等の定義を理解している。 ・ 例 1、例題 1、練習 1～2 ○複素数の四則計算ができる。 ・ 例 2、3、5、練習 3、4、6 ○負の数の平方根を理解している。 ・ 例 6～7、練習 7～8 ○負の数の平方根を含む式の計算を、i を用いて処理することができる。 ・ 例 6～7、練習 7～8 ○2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。 ・ 例 9、練習 10 ○判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。 ・ 例題 2～3、練習 11～12 ○解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ・ 例 10、例題 4～5、練習 13～15 ○対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 ・ 例題 4、練習 14 ○2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。 ・ 例題 6、練習 16 ○和と積が与えられた2数を、2次方程式を解くことにより求めることができる。 ・ 例 12、練習 18	
--	--	--	--	--	---	--

					○剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ・応用例題 3、練習 24 ○$P(k)=0$ である k の値のを見つけ方を理解し、高次式を因数分解できる。 ・例 15、練習 26 ○因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 ・例題 8～10、練習 27～29 ○高次方程式の2重解、3重解の意味を理解している。 ・p.62 ○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。 ・応用例題 4、練習 30 ○高次方程式が虚数解 $a+bi$ を解にもてば、$a-bi$ を解にもつことを利用できる。 ・p.62 Ⅱ○数学 I で既習の2次式の展開公式を利用して、3次式の展開公式を導くことができる。 ・p.8 ○二項定理をパスカルの三角形と結び付けて考えることができる。 ・p.11～13 ○二項定理を等式の証明に活用することができる。 ・練習 10 ○多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 ・例題 4、練習 13 ○2種類以上の文字を含む多項式の割り算を、1つの文字に着目することで、1文字の場合と同様に考えることができる。 ・応用例題 2、練習 14 ○分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。	
--	--	--	--	--	--	--

					・ p.19～21 ○恒等式における文字の役割の違いを認識できる。 ・ p.23 ○与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。 ・ 例題 8、練習 24～25 ○不等式 $A > B$ を証明するとき、$A - B > 0$ を示してもよいことを利用して、不等式を証明することができる。 ・ 例 12、例題 9、練習 27～28 ○不等式の証明に実数の性質を利用できるように、式変形を考えることができる。 ・ 例 13、例題 10、練習 29 ○不等式の証明で、等号の成り立つ場合について考察できる。 ・ 例 13、例題 10、12、応用例題 4、練習 29、31～32 ○同値な不等式を証明することで、もとの不等式を証明することができる。 ・ 例題 11、練習 30 ○複素数の表記を理解し、複素数 $a+0i$ を実数 a と同一視できる。 ・ p.40 ○複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。 ・ p.43 ○判別式 D の代わりに $D/4$ を用いても解の種類を判別できることを理解し、積極的に用いようとする。 ・ 例題 2、練習 11 ○与えられた 2 数を解にもつ 2 次方程式が 1 つには定まらないことを理解している。 ・ 例 11、応用例題 1、練習 17、19	
--	--	--	--	--	--	--

					○異なる 2 つの実数 α、β が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ・小項目 D ○2 次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。 ・応用例題 2、練習 20 ○多項式を 1 次式で割ったときの余りについて、剰余の定理で考察することができる。 ・例 13、例題 7、練習 21～23 ○多項式 $P(x)$ が $x-k$ で割り切れることを式で表現することができる。 ・p.58 ○高次方程式を 1 次方程式や 2 次方程式に帰着させることができる。 ・例題 8～10、練習 27～29 ○高次方程式が解 α をもつことを、式を用いて表現できる。 ・応用例題 4、練習 30 Ⅲ○因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 ・p.10 ○$[(a+b+c)]^n$ を展開したときの $[a]^p [b]^q [c]^r$ の係数がどうなるかを、興味・関心をもって調べようとする。 ・p.15 研究 ○2 種類の文字を含む多項式の割り算に興味を示し、具体的な問題に取り組もうとする。 ・応用例題 2、練習 14 ○繁分数式を分数式の性質を用いて処理することに意欲を示す。 ・例 9、練習 19 ○恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを、比較して考察しようとする。	
--	--	--	--	--	--	--

					・ p.24 研究 練習 1 ○比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。 ・ p.28 ○不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。 ・ 応用例題 4、練習 31 ○2 次方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。 ・ p.40 ○2 次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2 次方程式の解を考察しようとする。 ・ 例 8～9、練習 9～10 ○2 次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ・ 例題 6、練習 16 ○多項式を 1 次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。 ・ p.59 研究 例 1、練習 1 ○1 の 3 乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ・ p.60	
--	--	--	--	--	--	--

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 特進コース シラバス

教科	数学	科目	数学 A	単位数	3	選択等	必修
教科書	高等学校 数学 A (数研出版)						
副教材等	教科書傍用 4 プロセス数学 I +A (数研出版) スタディサプリ						

1 学習の到達目標

数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することをめざす。図形分野や場合の数と確率の分野においては、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

中学校での既習事項を確認しつつ、基礎から応用まで実力をつけましょう。
 数学的な物の考え方や、身近な事柄を数学的事象と捉えて、論理的に考察する力を養いましょう。
 数学を学ぶ上で、基礎を固めることが重要です。分からないまま先に進んでも、基礎が出来ていないと思考力や正確な判断力が養えません。実力に合わせて、確実に理解を深めていきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	従来の評価の観点とする。個別の知識や技能の習得状況に応じて評価し、様々な学習に関連づけたり活用する力を測る。	知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身につけているかを測る。	観点別評価を踏まえて、粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしているかも含めて評価する。
評 価 方 法	定期考査 小テスト 課題考査	定期考査 小テスト 課題考査	課題レポート 授業中の発表や態度
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	集合・場合の数	- 集合の基本事項 - 集合の要素の個数 - 場合の数 - 和の法則 - 積の法則	○	○	○	- 和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。 - ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。 - 集合を用いて、日常の事柄を数学的に捉えることができる。	課題調査 定期調査 小テスト レポート
1 学期 期末	順列・組合せ・確率	- 順列 - 組合せ - 事象と確率 - 確率の基本性質 - 条件付き確率 - 期待値	○	○	○	- 樹形図などを持ちいて、順列や組合せの総数をもれなく、重複なく求めることができる。 - 条件が付く順列や組合せの総数を求めることができる。 1個のサイコロを繰り返し投げる実験などを通して、統計的確率と数学的確率の違いに感心をもつ。	定期調査 小テスト 発表の様子
2 学期 中間	図形の性質	- 三角形の辺の比 - 外心、内心、重心 - 円に内接する四角形 - チェバ、メネラウスの定理	○	○	○	- 内分、外分、比などの基本事項が理解できる。 - 既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 - 円の性質について、取り扱いができる	課題調査 定期調査 小テスト レポート
2 学期 期末	数学と人間の活動	- 約数と倍数 - 素数と素因数分解 - 一次不定方程式 - 記数法	○	○	○	- 倍数の判定法や、素数についての考察ができる。 - 身近な事象を数学的に捉え、その仕組みを論理的に考察できる。	定期調査 小テスト 発表の様子
3 学期	指数・対数	- 指数の拡張 - 指数関数 - 対数とその性質 - 対数方程式	○	○	○	- 指数、対数の基本的な計算ができる。 - 指数や対数の方程式、不等式を解くことができる。 - 日常の減少を関数として捉えて、既習事項との関係に興味をもつ。	課題調査 定期調査 レポート

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「新編 生物基礎」(数研出版)						
副教材等	「新編 生物基礎 サポートノート」(数研出版) 「学習ノート 生物基礎」(数研出版)						

1 学習の到達目標

・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物基礎は、細胞のようなミクロな視点から生態系のようなマクロな視点で物事をとらえる科目です。生物の不思議を、一緒に考えて、解明していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性 ・さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることを理解する。 ・生物が「細胞からできている」、「遺伝情報として DNA をもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。 ・生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。 ・生物が、細胞からできているという共通性が見られることを確かめる。原核細胞と真核細胞の違いを知る。 ・顕微鏡の使い方と顕微鏡観察	○	○	○	I：系統樹を正しく読み取ることができる。 生物が「細胞からできている」、「遺伝情報として DNA をもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解している。 生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解している。 原核細胞と真核細胞の違いを理解している。 顕微鏡が扱える。 II：教科書などを用いて、生物の多様性について調べ、思考・判断し、レポートで表現する。 生物と生物でないものを見分け、その判断理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。 顕微鏡を用いて、細胞の大きさを測定できる。マイクロメーターについて説明できる。 III：クラスメイトと協力して、グループで答えを導き出す。生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
1 学期 期末	生物の特徴	第2節 エネルギーと代謝 ・生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP か	○	○	○	I：生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP から供給されていることを理解している。 ATP が生命活動にエネルギーを供給す	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		ら供給されていることを理解する。 ・ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 ・「1 日の消費エネルギーの算出」を行い, 自分自身が 1 日で消費するエネルギーの量を知る。 第 3 節 呼吸と光合成 ・呼吸・光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。 ・酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 ・生体内の化学反応が, 酵素のはたらきによって進行していることを理解する。	○	○	○	るしくみについて理解している。 Ⅱ：ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学 期 中 間	遺 伝 子 と そ の は た ら き	第 1 節 遺伝情報と DNA ・DNA の構造および塩基の相補性を理解する。 ・DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ・DNA の構造の模式図をもとに, DNA が 4 種類の塩基からなること, 塩基の結合は A と	○	○	○	Ⅰ：DNA の構造および塩基の相補性を理解している。 DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解している。 DNA の塩基配列にはさまざまなパターンが生じることを理解している。 Ⅱ：生物の細胞内に含まれる DNA を抽出できる。 DNA の構造の模式図をもとに, DNA が 4 種類の塩基からなること, 塩基の結合は A と T, G と C の間で起こるという	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

	T, G と C の間で起こるという規則性を理解する。 第 2 節 遺伝情報の複製と分配 • DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解する。 • 体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解する。 • 複製前後の DNA の模式図を比較し、DNA の正確な複製には塩基の相補性が利用されていることを理解する。 • 各時期の細胞数の割合から細胞周期における各時期の時間を推定できることを理解する。 第 3 節 遺伝情報の発現 • DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。 • 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。 • アミノ酸配列と、それを指定する DNA の塩基配列を示した資料をもとに、塩基 3 個がアミノ酸 1 個に対応して	○	○	○	規則性に気づき、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
		○	○	○	I：DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解している。 体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解している。 Ⅱ：複製前後の DNA の模式図を比較し、DNA の正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 各時期の細胞数の割合から細胞周期における各時期の時間を推定できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
		○	○	○	I：DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解している。 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解している。 Ⅱ：アミノ酸配列と、それを指定する DNA の塩基配列を示した資料をもとに、塩基 3 個がアミノ酸 1 個に対応していること、塩基 3 個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることに気づき、説明できる。 同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化するこ	

		いること、塩基 3 個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることを理解する。 ・同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することを理解する。				とに気づき、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学 期 期 末	ヒ ト の 体 内 環 境 の 維 持	第 1 節 体内での情報伝達と調節 ・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 ・運動によって心拍数が増加するしくみを理解する。 ・運動によってからだに変化が起こった理由を考察する。 第 2 節 体内環境の維持のしくみ ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・糖尿病の原因を理解する。 ・健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度	○	○	○	Ⅰ：体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解している。 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解している。 Ⅱ：運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 運動によってからだに変化が起こった理由を考察できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		体内環境の維持のしくみ ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・糖尿病の原因を理解する。 ・健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度	○	○	○	Ⅰ：自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解している。 糖尿病の原因を理解している。 Ⅱ：健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン分泌の関係に気づき、説明できる。 健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。	

		とインスリン分泌の関係を理解する。 ・健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を理解する。 第3節 免疫のはたらき ・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 ・免疫記憶のしくみを理解する。 ・免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。 ・細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察する。 ・同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、理解する。	○	○	○	Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解している。 免疫記憶のしくみを理解している。 免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解している。 Ⅱ：細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察できる。 同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。 免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
3 学 期	生 物 の 多 様	第1節 植生と遷移 ・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、	○	○	○	Ⅰ：いろいろな植生とその特徴を理解している。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。	

	性と生態系	遷移が進行する要因について理解する。 ・身近な植生にはどのような特徴をもつものがあるかを調べる。 ・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について理解する。 第2節 植生の分布とバイオーム ・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 ・日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測する。 ・気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを決める要因を理解する。 ・日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて理解する。 ・標高の高い場所で森林が見られない理由を理解する。	○	○	○	Ⅱ：遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 長い年月をかけて進行する植生の遷移を調べるには、どのような方法が考えられるか、自分の考えをまとめることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。 Ⅱ：日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測し、表現できる。 気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを決める要因に気づき、説明できる。 日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて考察し、説明できる。 標高の高い場所で森林が見られない理由を考察し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
--	--------------	--	---	---	---	--	---

	第3節 生態系と生物の多様性 ・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 ・身近な土壌に生息している生物の種類を確かめる。 ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、理解する。 第4節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。 ・水質と生息する生物の関係について考察する。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、理解する。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもと	○	○	○	I：生態系がどのように構成されているのかを理解している。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解している。 II：身近な土壌に生息している生物の種類を確かめ、表現できる。 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 III：授業中の態度、提出物	
	第4節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。 ・水質と生息する生物の関係について考察する。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、理解する。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもと	○	○	○	I：生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解している。 生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解している。 II：水質と生息する生物の関係について考察し、表現できる。 生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。 生態系への影響が予想される開発行為について、さまざまな観点・立場で考え、話し合い、解決策を模索することができる。 III：授業中の態度、提出物	

		に，外来生物が在来魚 に与えた影響を考察 し，理解する。					
--	--	------------------------------------	--	--	--	--	--

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「新編 化学基礎」(東京書籍)						
副教材等	「ニューアチーブ 化学基礎」(東京書籍)						

1 学習の到達目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

基本を覚えて、コツをつかむとわかりやすくなる科目です。原子や化学反応などの基礎知識の理解から計算能力まで学び、身近な物質や身の回りの事象を化学的に捉えられるようにしていきましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能(技術)	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	化学と人間生活	1 章 化学とは何か ・化学基礎とは何かについて考え、まとめる		○	○	II：教科書などを用いて、身の回りの物質について調べ、思考・判断し、レポートで表現する III：グループで答えを導き出す。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート
		2 章 物質の成分と構成元素 1 節 物質の成分 ・純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物から成分となる物質を分離する方法があり、それは物質の性質によるものであることを理解する。 2 節 物質の構成元素 ・物質は元素からつくられていることに気づく。 ・いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。	○	○	○	I：混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を理解している。 II：混合物の分離について、どのような性質によって分離されたかを科学的に考察している。 III：実験や授業中の態度、提出物 I：炎色反応や沈殿の生成で、元素の種類を確認できることを理解している。元素の同素体について、違いについて科学的に説明できる。 II：炎色反応の色から水溶液に含まれる元素を科学的に考察している。 III：実験や授業中の態度、提出物	

		3 節 物質の三態 ・身近な水以外の物質にも三態があることに気づく。 ・拡散が熱運動によることを理解する。 ・状態変化による体積の変化に気づく。	○	○	○	I：状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解している。 II：粒運動と物質の三態変化を探究し、これらの関係性を見いだして考察している。 III：授業中の態度、提出物	
1 学期期末	物質の構成	2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 1 節 原子の構造 ・物質を構成する粒子が原子であることに気づき、原子の大きさや構造について知る。 ・原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。 2 節 電子配置と周期表 ・原子のモデルを用いて原子核の周囲に電子殻があることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・最外殻電子と価電子を知る。 ・電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。	○	○	○	I：原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解している。 II：同位体について、説明できる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート

		・元素の性質の規則性について考察する。 2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合 ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づき、典型元素の陽性と陰性について理解する。 ・イオン結合の形成について理解する。 ・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。またそれらが身近に使われている用途を知る。	○	○	○	I：イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。イオン結合およびイオン結合でできた物質の性質を理解している。 II：元素の周期律とイオン化エネルギーの関係性を見だし表現できる。 III：授業中の態度、提出物	
2学期中間	物質の構成と物質の変化	2節 分子と共有結合 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・配位結合の形成を理解し、錯イオンについて知る。 ・分子の融点、沸点、水への溶解性から構成原子の電気陰性度が影響していることに気づく。結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。	○	○	○	I：共有結合を電子配置と関連付けて理解している。分子からなる物質の性質を理解している。 II：物質の極性と溶解性の関係性を予想し、関係性を見だし表現できる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート

	3 節 金属と金属結合 ・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・金属の性質について理解する。 ・身近に使われている金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。	○	○	○	I：金属の性質及び金属結合を理解している。 II：金属とその用途について、それらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。 III：授業中の態度、提出物	
	4 節 化学結合と物質の分類 ・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。		○	○	II：化学結合と物質の分類について、友達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。 III：授業中の態度、提出物	
	1 章 物質と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量との関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。	○		○	I：相対質量と原子量について理解している。 III：授業中の態度、提出物	

		2 節 物質質量 ・物質質量とその単位の mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・物質質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量、空気の平均分子量について理解する。 ・物質質量を中心とした量的関係を理解する。 ・実験観察を通して、1 mol の気体の体積について考察する。	○	○	○	I : 物質質量と粒子、質量、気体の体積の関係について理解している。 II : 物質質量と粒子、質量、気体の体積について、友達と話し合いながら見通しをもって観察を行い、得られた結果を分析した活動を行っている。 III : 授業中の態度、提出物	
2 学期 期末	物質の変化	3 節 溶液の濃度 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 4 節 化学反応の表し方 ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 5 節 化学反応式の表す量的関係 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。	○	○	○	I : モル濃度について理解している。 II : 水溶液の調整について、友達と話し合いながら確認し、誤ったガラス器具の使い方で行く現象についての問題を見いだす活動を行っている。 III : 授業中の態度、提出物 I : 化学反応式やイオン反応式について理解している。 III : 授業中の態度、提出物 I : 化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解している。 II : 化学反応における量的関係について、化学反応式の係数が物質質量の比を表	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート

	・化学反応の表す量的関係について発表する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。				していることを見出そうとしている。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
	2 章 酸と塩基 1 節 酸と塩基 ・酸と塩基の性質について理解する。・アレニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。	○	○	○	I：酸と塩基の性質及び定義を理解している。 II：酸と塩基の強弱と電離度の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見だし表現できる。 Ⅲ：実験や授業中の態度、提出物	
	2 節 水素イオン濃度と pH ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・pH 指示薬と変色域により、水溶液の pH が測定できることを知る。 ・実験観察を通して、身近な物質の pH や希釈した水溶液の pH の変化を比較し考える。	○	○	○	I：水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度や pH で表せることを理解している。pH 指示薬について理解している。 II：身近のまわりの物質の pH を測定し、友達と話し合いながら様々な比較を加えて考えようとしている。 Ⅲ：実験や授業中の態度、提出物	
	3 節 中和反応と塩の生成 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化	○	○	○	I：酸と塩基が完全に中和するときの化学反応式及び塩の水溶液について理解している。 II：身近のまわりの物質の pH を測定し、	

		学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・実験観察を通して、塩の水溶液の pH を測定する。その塩をつくるもとになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。				様々な比較を加えて考えようとしている。 Ⅲ：実験や授業中の態度、提出物	
		4 節 中和滴定 ・中和の条件は、酸から生じる H^+ の物質量和塩基から生じる OH^- の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。 ・酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、適切な指示薬の使い分けを理解する。	○	○	○	I：酸と塩基の中和反応に関与する物質の量的関係について理解している。 II：器具の扱い方や溶液の調製方法など中和滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。 Ⅲ：実験や授業中の態度、提出物	
3 学 期	物 質 の 変 化	3 章 酸化還元反応 1 節 酸化と還元 ・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応	○	○	○	I：酸化と還元が電子の授受によることを理解している。 II：酸化と還元の定義について、友達と話し合いながら確認し、酸化数の増減について見いだす活動を行っている。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート

	についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。					
	2 節 酸化剤と還元剤 ・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・酸化還元滴定に用いる器具の使い方がわかり、実験操作を理解する。	○	○	○	I : 酸化還元反応式の反応式について理解している。 II : 酸化還元滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。 III : 授業中の態度、提出物	
	3 節 金属の酸化還元反応 ・実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。	○	○	○	I : 金属のイオン化傾向について理解している。 II : 金属の陽イオンへのなりやすさを比較測定し、友達と話し合いながら科学的に考察している。 III : 授業中の態度、提出物	

		4 節 酸化還元反応の応用 ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。	○	○	○	I：電池の構造やしぐみ及び金属の製錬について理解している。 II：電池について構造とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。 III：授業中の態度、提出物	
		終章 化学が拓く世界 ・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解する。	○	○	○	I：学んできた事柄が日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。 II：日常生活や社会を支えている科学技術について、友達と話し合い、その用途や社会課題に対する解決策などを様々な視点で考察している。 III：授業中の態度、提出物	

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「新編 生物基礎」(数研出版)						
副教材等	「新編 生物基礎 サポートノート」(数研出版) 「学習ノート 生物基礎」(数研出版)						

1 学習の到達目標

- ・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物基礎は、細胞のようなミクロな視点から生態系のようなマクロな視点で物事をとらえる科目です。生物の不思議を、一緒に考えて、解明していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性 ・さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることを理解する。 ・生物が「細胞からできている」、「遺伝情報として DNA をもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。 ・生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。 ・生物が、細胞からできているという共通性が見られることを確かめる。原核細胞と真核細胞の違いを知る。 ・顕微鏡の使い方と顕微鏡観察	○	○	○	I：系統樹を正しく読み取ることができる。 生物が「細胞からできている」、「遺伝情報として DNA をもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解している。 生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解している。 原核細胞と真核細胞の違いを理解している。 顕微鏡が扱える。 II：教科書などを用いて、生物の多様性について調べ、思考・判断し、レポートで表現する。 生物と生物でないものを見分け、その判断理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。 顕微鏡を用いて、細胞の大きさを測定できる。マイクロメーターについて説明できる。 III：クラスメイトと協力して、グループで答えを導き出す。生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
1 学期 期末	生物の特徴	第2節 エネルギーと代謝 ・生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP か	○	○	○	I：生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP から供給されていることを理解している。 ATP が生命活動にエネルギーを供給す	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		ら供給されていることを理解する。 ・ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 ・「1 日の消費エネルギーの算出」を行い, 自分自身が 1 日で消費するエネルギーの量を知る。 第 3 節 呼吸と光合成 ・呼吸・光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。 ・酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 ・生体内の化学反応が, 酵素のはたらきによって進行していることを理解する。	○	○	○	るしくみについて理解している。 Ⅱ：ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学 期 中 間	遺 伝 子 と そ の は た ら き	第 1 節 遺伝情報と DNA ・DNA の構造および塩基の相補性を理解する。 ・DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ・DNA の構造の模式図をもとに, DNA が 4 種類の塩基からなること, 塩基の結合は A と	○	○	○	Ⅰ：DNA の構造および塩基の相補性を理解している。 DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解している。 DNA の塩基配列にはさまざまなパターンが生じることを理解している。 Ⅱ：生物の細胞内に含まれる DNA を抽出できる。 DNA の構造の模式図をもとに, DNA が 4 種類の塩基からなること, 塩基の結合は A と T, G と C の間で起こるという	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

	T, G と C の間で起こるという規則性を理解する。 第 2 節 遺伝情報の複製と分配 • DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解する。 • 体細胞分裂の過程で DNA が複製され, 分配されることを理解する。 • 複製前後の DNA の模式図を比較し, DNA の正確な複製には塩基の相補性が利用されていることを理解する。 • 各時期の細胞数の割合から細胞周期における各時期の時間を推定できることを理解する。 第 3 節 遺伝情報の発現 • DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される, 転写・翻訳の過程を理解する。 • 分化した細胞では, 細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。 • アミノ酸配列と, それを指定する DNA の塩基配列を示した資料をもとに, 塩基 3 個がアミノ酸 1 個に対応して	○	○	○	規則性に気づき, 説明できる。 Ⅲ : 授業中の態度、提出物 Ⅰ : DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解している。 体細胞分裂の過程で DNA が複製され, 分配されることを理解している。 Ⅱ : 複製前後の DNA の模式図を比較し, DNA の正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき, 説明できる。 各時期の細胞数の割合から細胞周期における各時期の時間を推定できる。 Ⅲ : 授業中の態度、提出物 Ⅰ : DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される, 転写・翻訳の過程を理解している。 分化した細胞では, 細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解している。 Ⅱ : アミノ酸配列と, それを指定する DNA の塩基配列を示した資料をもとに, 塩基 3 個がアミノ酸 1 個に対応していること, 塩基 3 個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることに気づき, 説明できる。 同じ遺伝情報をもつ受精卵から, 異なる形やはたらきをもつ細胞が分化するこ	
--	---	---	---	---	---	--

		いること、塩基 3 個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることを理解する。 ・同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することを理解する。				とに気づき、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学 期 期 末	ヒ ト の 体 内 環 境 の 維 持	第 1 節 体内での情報伝達と調節 ・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 ・運動によって心拍数が増加するしくみを理解する。 ・運動によってからだに変化が起こった理由を考察する。 第 2 節 体内環境の維持のしくみ ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・糖尿病の原因を理解する。 ・健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度	○	○	○	I：体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解している。 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解している。 II：運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 運動によってからだに変化が起こった理由を考察できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		とインスリン分泌の関係を理解する。 ・健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を理解する。 第3節 免疫のはたらき ・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 ・免疫記憶のしくみを理解する。 ・免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。 ・細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察する。 ・同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、理解する。	○	○	○	Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解している。 免疫記憶のしくみを理解している。 免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解している。 Ⅱ：細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察できる。 同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。 免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
3 学 期	生 物 の 多 様	第1節 植生と遷移 ・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、	○	○	○	Ⅰ：いろいろな植生とその特徴を理解している。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。	

	性と生態系	遷移が進行する要因について理解する。 ・身近な植生にはどのような特徴をもつものがあるかを調べる。 ・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について理解する。 第2節 植生の分布とバイオーム ・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 ・日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測する。 ・気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを決める要因を理解する。 ・日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて理解する。 ・標高の高い場所で森林が見られない理由を理解する。	○	○	○	Ⅱ：遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 長い年月をかけて進行する植生の遷移を調べるには、どのような方法が考えられるか、自分の考えをまとめることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。 Ⅱ：日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測し、表現できる。 気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを決める要因に気づき、説明できる。 日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて考察し、説明できる。 標高の高い場所で森林が見られない理由を考察し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
--	--------------	--	---	---	---	--	---

	第3節 生態系と生物の多様性 ・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 ・身近な土壌に生息している生物の種類を確かめる。 ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、理解する。 第4節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。 ・水質と生息する生物の関係について考察する。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、理解する。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもと	○	○	○	I：生態系がどのように構成されているのかを理解している。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解している。 II：身近な土壌に生息している生物の種類を確かめ、表現できる。 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 III：授業中の態度、提出物	
	第4節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。 ・水質と生息する生物の関係について考察する。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、理解する。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもと	○	○	○	I：生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解している。 生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解している。 II：水質と生息する生物の関係について考察し、表現できる。 生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。 生態系への影響が予想される開発行為について、さまざまな観点・立場で考え、話し合い、解決策を模索することができる。 III：授業中の態度、提出物	

		に，外来生物が在来魚 に与えた影響を考察 し，理解する。					
--	--	------------------------------------	--	--	--	--	--

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 特進コース シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「新編 化学基礎」(東京書籍)						
副教材等	「ニューアチーブ 化学基礎」(東京書籍) 「セミナー 化学基礎+化学」(第一学習社)						

1 学習の到達目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

基本を覚えて、コツをつかむとわかりやすくなる科目です。原子や化学反応などの基礎知識の理解から計算能力まで学び、身近な物質や身の回りの事象を化学的に捉えられるようにしていきましょう。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能(技術)	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	化学と人間生活	1 章 化学とは何か ・化学基礎とは何かについて考え、まとめる		○	○	II：教科書などを用いて、身の回りの物質について調べ、思考・判断し、レポートで表現する III：グループで答えを導き出す。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート
		2 章 物質の成分と構成元素 1 節 物質の成分 ・純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物から成分となる物質を分離する方法があり、それは物質の性質によるものであることを理解する。	○	○	○	I：混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を理解している。 II：混合物の分離について、どのような性質によって分離されたかを科学的に考察している。 III：実験や授業中の態度、提出物	
		2 節 物質の構成元素 ・物質は元素からつくられていることに気づく。 ・いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。	○	○	○	I：炎色反応や沈殿の生成で、元素の種類を確認できることを理解している。元素の同素体について、違いについて科学的に説明できる。 II：炎色反応の色から水溶液に含まれる元素を科学的に考察している。 III：実験や授業中の態度、提出物	
						I：態変化には粒子の熱運動が関係して	

		3 節 物質の三態 - 身近な水以外の物質にも三態があることに気づく。 - 拡散が熱運動によることを理解する。 - 状態変化による体積の変化に気づく。	○	○	○	いることを理解している。 Ⅱ：粒運動と物質の三態変化を探究し、これらの関係性を見いだして考察している。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
1 学期期末	物質の構成	2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 1 節 原子の構造 - 物質を構成する粒子が原子であることに気づき、原子の大きさや構造について知る。 - 原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 - 質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。 2 節 電子配置と周期表 - 原子のモデルを用いて原子核の周囲に電子殻があることに気づく。 - 電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 - 最外殻電子と価電子を知る。 - 電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。	○	○	○	Ⅰ：原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解している。 Ⅱ：同位体について、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート

		・元素の性質の規則性について考察する。 2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合 ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づき、典型元素の陽性と陰性について理解する。 ・イオン結合の形成について理解する。 ・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。またそれらが身近に使われている用途を知る。	○	○	○	I：イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。イオン結合およびイオン結合でできた物質の性質を理解している。 II：元素の周期律とイオン化エネルギーの関係性を見だし表現できる。 III：授業中の態度、提出物	
2学期中間	物質の構成と物質の変化	2節 分子と共有結合 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・配位結合の形成を理解し、錯イオンについて知る。 ・分子の融点、沸点、水への溶解性から構成原子の電気陰性度が影響していることに気づく。結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。	○	○	○	I：共有結合を電子配置と関連付けて理解している。分子からなる物質の性質を理解している。 II：物質の極性と溶解性の関係性を予想し、関係性を見だし表現できる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート

	3 節 金属と金属結合 ・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・金属の性質について理解する。 ・身近に使われている金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。	○	○	○	I：金属の性質及び金属結合を理解している。 II：金属とその用途について、それらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。 III：授業中の態度、提出物	
	4 節 化学結合と物質の分類 ・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。		○	○	II：化学結合と物質の分類について、友達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。 III：授業中の態度、提出物	
	1 章 物質と化学反応式 1 節 原子量・分子量・式量 ・原子の相対質量について理解する。 ・同位体と原子量の関係を考察する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。	○		○	I：相対質量と原子量について理解している。 III：授業中の態度、提出物	

		2 節 物質質量 ・物質質量とその単位の mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・物質質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量、空気の平均分子量について理解する。 ・物質質量を中心とした量的関係を理解する。 ・実験観察を通して、1 mol の気体の体積について考察する。	○	○	○	I : 物質質量と粒子、質量、気体の体積の関係について理解している。 II : 物質質量と粒子、質量、気体の体積について、友達と話し合いながら見通しをもって観察を行い、得られた結果を分析した活動を行っている。 III : 授業中の態度、提出物	
2 学期 期末	物質の変化	3 節 溶液の濃度 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 4 節 化学反応の表し方 ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 5 節 化学反応式の表す量的関係 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。	○	○	○	I : モル濃度について理解している。 II : 水溶液の調整について、友達と話し合いながら確認し、誤ったガラス器具の使い方で行く現象についての問題を見いだす活動を行っている。 III : 授業中の態度、提出物 I : 化学反応式やイオン反応式について理解している。 III : 授業中の態度、提出物 I : 化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解している。 II : 化学反応における量的関係について、化学反応式の係数が物質質量の比を表	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート

	・化学反応の表す量的関係について発表する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。				していることを見出そうとしている。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
	2 章 酸と塩基 1 節 酸と塩基 ・酸と塩基の性質について理解する。・アレニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。	○	○	○	I：酸と塩基の性質及び定義を理解している。 II：酸と塩基の強弱と電離度の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見だし表現できる。 Ⅲ：実験や授業中の態度、提出物	
	2 節 水素イオン濃度と pH ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・pH 指示薬と変色域により、水溶液の pH が測定できることを知る。 ・実験観察を通して、身近な物質の pH や希釈した水溶液の pH の変化を比較し考える。	○	○	○	I：水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度や pH で表せることを理解している。pH 指示薬について理解している。 II：身近のまわりの物質の pH を測定し、友達と話し合いながら様々な比較を加えて考えようとしている。 Ⅲ：実験や授業中の態度、提出物	
	3 節 中和反応と塩の生成 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化	○	○	○	I：酸と塩基が完全に中和するときの化学反応式及び塩の水溶液について理解している。 II：身近のまわりの物質の pH を測定し、	

		学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・実験観察を通して、塩の水溶液の pH を測定する。その塩をつくるもとになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。				様々な比較を加えて考えようとしている。 Ⅲ：実験や授業中の態度、提出物	
		4 節 中和滴定 ・中和の条件は、酸から生じる H^+ の物質量と塩基から生じる OH^- の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。 ・酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、適切な指示薬の使い分けを理解する。	○	○	○	I：酸と塩基の中和反応に関与する物質の量的関係について理解している。 II：器具の扱い方や溶液の調製方法など中和滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。 Ⅲ：実験や授業中の態度、提出物	
3 学 期	物 質 の 変 化	3 章 酸化還元反応 1 節 酸化と還元 ・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応	○	○	○	I：酸化と還元が電子の授受によることを理解している。 II：酸化と還元の定義について、友達と話し合いながら確認し、酸化数の増減について見いだす活動を行っている。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート

	についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。					
	2 節 酸化剤と還元剤 ・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・酸化還元滴定に用いる器具の使い方がわかり、実験操作を理解する。	○	○	○	I : 酸化還元反応式の反応式について理解している。 II : 酸化還元滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。 III : 授業中の態度、提出物	
	3 節 金属の酸化還元反応 ・実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。	○	○	○	I : 金属のイオン化傾向について理解している。 II : 金属の陽イオンへのなりやすさを比較測定し、友達と話し合いながら科学的に考察している。 III : 授業中の態度、提出物	

		4 節 酸化還元反応の応用 ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。	○	○	○	I：電池の構造やしくみ及び金属の製錬について理解している。 II：電池について構造とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。 III：授業中の態度、提出物	
		終章 化学が拓く世界 ・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解する。	○	○	○	I：学んできた事柄が日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。 II：日常生活や社会を支えている科学技術について、友達と話し合い、その用途や社会課題に対する解決策などを様々な視点で考察している。 III：授業中の態度、提出物	

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 特進コース シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「新編 生物基礎」(数研出版)						
副教材等	「新編 生物基礎 サポートノート」(数研出版) 「リード Light 生物基礎」(数研出版)						

1 学習の到達目標

・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物基礎は、細胞のようなミクロな視点から生態系のようなマクロな視点で物事をとらえる科目です。生物の不思議を、一緒に考えて、解明していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性 ・さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることを理解する。 ・生物が「細胞からできている」、「遺伝情報として DNA をもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。 ・生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。 ・生物が、細胞からできているという共通性が見られることを確かめる。原核細胞と真核細胞の違いを知る。 ・顕微鏡の使い方と顕微鏡観察	○	○	○	I：系統樹を正しく読み取ることができる。 生物が「細胞からできている」、「遺伝情報として DNA をもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解している。 生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解している。 原核細胞と真核細胞の違いを理解している。 顕微鏡が扱える。 II：教科書などを用いて、生物の多様性について調べ、思考・判断し、レポートで表現する。 生物と生物でないものを見分け、その判断理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。 顕微鏡を用いて、細胞の大きさを測定できる。マイクロメーターについて説明できる。 III：クラスメイトと協力して、グループで答えを導き出す。生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
1 学期 期末	生物の特徴	第2節 エネルギーと代謝 ・生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP か	○	○	○	I：生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP から供給されていることを理解している。 ATP が生命活動にエネルギーを供給す	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		ら供給されていることを理解する。 ・ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 ・「1 日の消費エネルギーの算出」を行い、自分自身が 1 日で消費するエネルギーの量を知る。 第 3 節 呼吸と光合成 ・呼吸・光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。 ・酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 ・生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。	○	○	○	るしくみについて理解している。 Ⅱ：ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学 期 中 間	遺 伝 子 と そ の は た ら き	第 1 節 遺伝情報と DNA ・DNA の構造および塩基の相補性を理解する。 ・DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ・DNA の構造の模式図をもとに、DNA が 4 種類の塩基からなること、塩基の結合は A と	○	○	○	Ⅰ：DNA の構造および塩基の相補性を理解している。 DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解している。 DNA の塩基配列にはさまざまなパターンが生じることを理解している。 Ⅱ：生物の細胞内に含まれる DNA を抽出できる。 DNA の構造の模式図をもとに、DNA が 4 種類の塩基からなること、塩基の結合は A と T、G と C の間で起こるという	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

	T、G と C の間で起こるという規則性を理解する。 第 2 節 遺伝情報の複製と分配 •DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解する。 ・体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解する。 ・複製前後の DNA の模式図を比較し、DNA の正確な複製には塩基の相補性が利用されていることを理解する。 ・各時期の細胞数の割合から細胞周期における各時期の時間を推定できることを理解する。 第 3 節 遺伝情報の発現 •DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。 ・分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。 ・アミノ酸配列と、それを指定する DNA の塩基配列を示した資料をもとに、塩基 3 個がアミノ酸 1 個に対応して	○	○	○	規則性に気づき、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解している。 体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解している。 Ⅱ：複製前後の DNA の模式図を比較し、DNA の正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 各時期の細胞数の割合から細胞周期における各時期の時間を推定できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解している。 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解している。 Ⅱ：アミノ酸配列と、それを指定する DNA の塩基配列を示した資料をもとに、塩基 3 個がアミノ酸 1 個に対応していること、塩基 3 個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることに気づき、説明できる。 同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化するこ	
--	---	---	---	---	--	--

		いること、塩基 3 個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることを理解する。 ・同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することを理解する。				とに気づき、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学期期末	ヒトの体内環境の維持	第 1 節 体内での情報伝達と調節 ・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 ・運動によって心拍数が増加するしくみを理解する。 ・運動によってからだに変化が起こった理由を考察する。 第 2 節 体内環境の維持のしくみ ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・糖尿病の原因を理解する。 ・健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度	○	○	○	Ⅰ：体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解している。 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解している。 Ⅱ：運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 運動によってからだに変化が起こった理由を考察できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		体内環境の維持のしくみ ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・糖尿病の原因を理解する。 ・健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度	○	○	○	Ⅰ：自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解している。 糖尿病の原因を理解している。 Ⅱ：健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン分泌の関係に気づき、説明できる。 健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。	

		とインスリン分泌の関係を理解する。 ・健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を理解する。 第3節 免疫のはたらき ・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 ・免疫記憶のしくみを理解する。 ・免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。 ・細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察する。 ・同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、理解する。	○	○	○	Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解している。 免疫記憶のしくみを理解している。 免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解している。 Ⅱ：細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察できる。 同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。 免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
3 学 期	生 物 の 多 様	第1節 植生と遷移 ・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、	○	○	○	Ⅰ：いろいろな植生とその特徴を理解している。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。	

	性と生態系	遷移が進行する要因について理解する。 ・身近な植生にはどのような特徴をもつものがあるかを調べる。 ・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について理解する。 第2節 植生の分布とバイオーム ・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 ・日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測する。 ・気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを決める要因を理解する。 ・日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて理解する。 ・標高の高い場所で森林が見られない理由を理解する。 第3節	○	○	○	Ⅱ：遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 長い年月をかけて進行する植生の遷移を調べるには、どのような方法が考えられるか、自分の考えをまとめることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。 Ⅱ：日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測し、表現できる。 気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを決める要因に気づき、説明できる。 日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて考察し、説明できる。 標高の高い場所で森林が見られない理由を考察し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
--	--------------	---	---	---	---	--	---

	生態系と生物の多様性 ・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 ・身近な土壌に生息している生物の種類を確かめる。 ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、理解する。 第4節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。 ・水質と生息する生物の関係について考察する。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、理解する。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚	○	○	○	I：生態系がどのように構成されているのかを理解している。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解している。 II：身近な土壌に生息している生物の種類を確かめ、表現できる。 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 III：授業中の態度、提出物	
	生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。 ・水質と生息する生物の関係について考察する。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、理解する。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚	○	○	○	I：生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解している。 生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解している。 II：水質と生息する生物の関係について考察し、表現できる。 生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。 生態系への影響が予想される開発行為について、さまざまな観点・立場で考え、話し合い、解決策を模索することができる。 III：授業中の態度、提出物	

		に与えた影響を考察し、理解する。					
--	--	------------------	--	--	--	--	--

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	ソルフェージュ I	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	五線ノート						

1 学習の到達目標

基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。音感、リズム感等を養い、読譜力の向上につなげる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。不得意な場合も諦めず、続けて努力してみてください。授業で書き取った旋律や和音は必ず清書してピアノで弾き、歌ってみましょう。リズムや音感など定着します。聴音が出来るようになると、専攻実技の演奏も必ず伸びます。頑張ってください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形作っている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。	音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。	旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		

前期	旋律聴音	高音部譜表 低音部譜表 (ハ長調、イ短調、 ト長調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	I：音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形づくっている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。 II：音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。 III：旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
	複旋律・和音聴音	2声旋律聴音 大譜表 (ハ長調、イ短調、 ト長調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子 4声体和音聴音 大譜表 (ハ長調) 密集配置 拍子 2分の2拍子	○ ○	○ ○		
後期	旋律聴音	高音部譜表 低音部譜表 (ト長調、ホ短調、 ヘ長調、ニ短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	I：音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形づくっている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。 II：音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。 III：旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
	複旋律・和音聴音	2声旋律聴音 大譜表 (ト長調、ヘ長調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子 4声体和音聴音 大譜表 (ハ長調) 密集配置・開離配置	○ ○	○ ○		

		拍子 2 分の 2 拍子					
--	--	-----------------	--	--	--	--	--

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	ソルフェージュⅢ	単位数	1	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	ハノン						

1 学習の到達目標

基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。音感、リズム感等を養い、読譜力の向上につなげる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

ピアノを使用し、視奏を行います。ピアノが不得意な場合も諦めず、続けて努力してみてください。基礎的なスケール・カデンツを弾くことにより調性感を養いましょう。また初見では読譜力を養い、連弾では相手の音を聴きながら、一緒に音楽を作り上げる力、表現力を養えるよう頑張ってください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音楽を形づくっている旋律、フレーズなどの要素を読み取り、演奏する技能を身につけている。 楽譜から様々な情報を読み取り、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。	楽譜から様々な情報を読み取り、曲のイメージを表現することが出来る。音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。	楽譜を正しく演奏するだけでなく、その曲に込められた感情や音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		

前期	スケール	【鍵盤楽器専攻】 全調スケール（4 オクターブ） 【他専攻】 調号 2 つまで（4 オクターブ） 短調は和声短音階と旋律短音階 （スケールはハノン 39 番参照）	○	○	○	調性、調号を理解している。 指番号を正しく弾いている。 適正な速度で弾いている。 各自の能力に応じた練習を主体的に行っている。 音色や指の形にも注意して、演奏している。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
	初見	ハ長調の基礎和音を他の調性で移調奏 ハ長調 8 小節、また 4 段程度の様々なジャンルの楽曲を数分予見後、初見視奏	○	○	○	スケールの調性を理解・判断し、初見視奏につないで演奏が出来る。 予見時に、楽譜の情報を読み取り、思考・判断して演奏しようとしている。また、曲のイメージを表現しようとしている。	
後期	スケール	【鍵盤楽器専攻】 全調スケール（4 オクターブ） 【他専攻】 調号 4 つまで（4 オクターブ） 短調は和声短音階と旋律短音階 （スケールはハノン 39 番参照）	○	○	○	調性、調号を理解している。 指番号を正しく弾いている。 適正な速度で弾いている。 各自の能力に応じた練習を主体的に行っている。 音色や指の形にも注意して、演奏している。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
	連弾	【鍵盤楽器専攻】 主にバロック・古典派の協奏曲や管弦組曲などを連弾(曲は未定) 【他専攻】 古典派のディアベリなどの連弾曲(曲は未定)	○	○	○	スケールの調性を理解・判断し、連弾演奏につないで演奏が出来る。 楽譜から様々な情報を読み取り、曲のイメージを表現することが出来る。音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。 楽譜を正しく演奏するだけでなく、その曲に込められた感情や音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。 アンサンブルを楽しみ、主体的に曲作りに意欲的である。	

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	音楽理論	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	楽典練習 115（カワイ出版）						

1 学習の到達目標

音楽理論の基礎となる楽典の知識と、様々な問題を解く力を身に付ける。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

皆さんが取るノートが教科書になります。しっかりノートを取りましょう。

分からないことをそのままにせず、積極的に質問し、疑問を解消していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音楽の基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付ける。	音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力を育成する。	楽典を学ぶことで音楽を理論的にとらえて、主体的・協動的に表現や鑑賞に活かそうとするする態度を養う。
評 価 方 法	学習状況 発問への対応 定期考査	学習状況 発問への対応 定期考査	学習状況 発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		

1 学 期 中 間	基 礎	音部記号 オクターブ記号 音名 音符と休符	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	音を表す基礎となる音部記号や音名、音符などの知識がきちんと身につけているか確認する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
1 学 期 期 末	基 礎 ・ 音 程	小節と拍子 音程の基礎	○ ○	○ ○	○ ○	拍子の種類を知ること、テンポの取り方などを理解し、自身が演奏している楽譜についても考察できる。 音程の知識を身に付け、実際の音と結び付けて感じ取れる。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学 期 中 間	音 程 ・ 音 階 と 調	音程の応用 音階 全音階 様々な音階 近親調	○ ○	○ ○	○ ○	楽典の練習課題を通じて、応用問題も理解し解けるようにする。 音階については、西洋音楽の基本となる全音階について確認する。 調性について理解し、様々な問題を解く技量を身に付ける。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学 期 期 末	和 音 ・ 移 調	和音の種類と転回位置 和音記号 コードネーム 移調と移調楽器	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	和音の種類を知識としてまず理解し、音を聞きその違いを感じ取れる。 楽曲を移調できる。移調楽器についての知識を身に付ける。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
3 学 期	調 判 定 ・ 総 復 習	調判定 旋律 和音 その他 これまでの総合課題	○ ○	○ ○	○ ○	様々な形で楽曲の調判定ができること。 一年を通じて学んできたことの総復習をして、身に付けたことを確認する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	合唱	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	楽譜プリント等						

1 学習の到達目標

一緒に声を聴きあいながらハーモニーや音楽を作ることによって音楽的協調性を養う。演奏会本番での発表に向けて、生徒同士の意見交換をしながら曲を仕上げていくことで、演奏するだけでなく、練習課程の大切さを学ぶ。また、音楽の表現に必要な呼吸や歌詞の意味をどう表現に活かすのかを習得することで、技術や感性を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業で取り扱う楽曲が皆の心に響くよう、また合唱の素晴らしさと楽しさを感じて貰えたらと願っています。表現の仕方や呼吸は合唱だけでなく、自身の専攻の演奏にも通じるところがたくさんあると思いますので、ぜひ活かしてください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。 互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。	音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。歌詞の内容をふまえて、音楽表現を考察し、楽曲により相応しい歌唱を目指すことができる。声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づけている要素を活かしながら演奏を追求するとともに、表現の多様性を学ぶことができる。	演奏発表の場を年に数回設け、その発表に向けて周りとの協力しながら積極的に作品に向き合う意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、主体的・協働的に表現力を高め合おうと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・実技試験	・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評

定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
前期	聖歌・ピース大阪・定期演奏会	・聖歌 4月「花祭りの歌」 5月「宗祖降誕会」 6月「相愛学園歌」 7月「盆会の歌」 8月「衆会」 9月「ひかりあふれて」 その他、法要での聖歌	○	○	○	I：礼拝時の毎月の聖歌に取り組み、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。 II：歌詞の内容をふまえて、音楽表現を考察し、声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら表現できる。 III：定期演奏会での演奏曲では、発表に向けて周りとは協力しながら積極的に作品に向き合おうという意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		・ピース大阪演奏曲 「Every day, Happy day」 「瑠璃色の地球」 「ふるさと」 ・定期演奏会演奏曲 「青い鳥」 「相愛学園歌」	○	○	○		
後期	聖歌・模範演奏・乙女コンサート	・聖歌 10月「聖夜」 11月「みほとけは」 12月「成道の歌」 1月「四弘誓願」 2月「さんだんのうた」 3月「芬陀利華」 その他、法要での聖歌	○	○	○	I：礼拝時の毎月の聖歌に取り組み、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。 II：歌詞の内容をふまえて、音楽表現を	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		・コーラスコンクール	○	○	○		

		模範演奏曲				考察し、声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら表現できる。 Ⅲ：乙女コンサートでの演奏曲では、発表に向けて周りと協力しながら積極的に作品に向き合おうという意欲がある。 練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。	
		・乙女コンサート演奏曲	○	○	○		

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	選択等	必修
教科書	「高校生の音楽 1」(教育芸術社)						
副教材等	白表紙聖歌集、ノート、プリント、プリント用フラットファイル						

1 学習の到達目標

- ・音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。
- ・音楽に触れることで、感性を高め、豊かな情操を養う。
- ・より専門的な音楽の基礎を学ぶ。個性豊かに表現する力を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

音楽に触れることにより、音楽の美しさや楽しさを感じ取り、心豊かに生活できることを願っています。楽典の分野から合唱曲などを理解し、難しい分野もありますが色々な音楽を楽しみましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	【表現】 歌唱表現に関わる曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりや言葉の特性と曲種を理解している。曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけている。 【鑑賞】 鑑賞に関わる音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解している。 【共通事項】 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。	【表現】 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫することやどのように表すかについて表現意図をもっている。 【鑑賞】 知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【共通事項】 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。	【表現・鑑賞】 主体的・協働的に歌唱・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評 価	定期考査、歌唱テスト、ワークシート、小テスト	定期考査、ワークシート、小テスト	小テストの結果、ワークシートの内容で評価。また、積極的に

方 法			歌唱に取り組む態度や発問に対する反応と発言、提出物の内容で評価。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期	合 唱	合唱 「翼をください」他	○	○	○	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを持って表現する。	学習態度 定期テスト
	斉 唱	斉唱・独唱 「Caro mio ben」 (イタリア語) 他	○	○	○	音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりや言葉の特性と曲種を理解している。曲にふさわしい発声、イタリア語の発音を理解し、表現している。	歌唱テスト 定期テスト
	鑑 賞	鑑賞 バロック時代の音楽 (バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディ)	○	○	○	西洋音楽の時代背景を理解し関心を高め、バロック時代の特徴を聴き分けることができる。	ワークシート・定期考査
	楽 典	楽典 音部記号、日本音名・ドイツ音名、音符・休符、拍子	○	○	○	音部記号や音符・休符を理解し、読譜に適應できる。	小テスト 定期テスト
	聖 歌	聖歌(毎月の歌・礼拝の歌・降誕会法要の歌・学園歌)			○	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	学習態度
	合 唱	合唱 コーラスコンクール曲 他	○	○	○	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを持って表現する。 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	学習態度 定期テスト

2 学 期	斉 唱	斉唱・独唱曲 「野ばら」 (ドイツ語・日本語)	○	○	○	音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりや言葉の特性と曲種を理解している。曲にふさわしい発声、ドイツ語の発音を理解し、表現している。	歌唱テスト 定期テスト
	鑑 賞	鑑賞 古典派時代の音楽（モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン）	○	○	○	西洋音楽の時代背景を理解し、関心を高め、古典派時代の特徴を聴き分けることができる。	ワークシート・定期考査
	楽 典	楽典 音程（幹音・派生音）	○	○	○	第1学期に学習した音部記号から音と音の幅を数えることができる。音程の種類を理解している。	小テスト 定期テスト
	聖 歌	聖歌（毎月の歌）			○	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	学習態度
3 学 期	合 唱	合唱・斉唱 「さびしいカシの木」 「乾杯の歌」他	○	○	○	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを持って表現している。	学習態度 定期テスト
	鑑 賞	鑑賞 ロマン派・近代現代時代の音楽（シューベルト、ショパン、ヴェルディ）	○	○	○	西洋音楽の時代背景を理解し関心を高め、ロマン派・近代現代時代の特徴を聴き分けることができる。	ワークシート・定期考査
	楽 典	楽典 音階（調号）	○	○	○	各調性を理解し、＃や♭などの調号を理解。初出の楽譜の調性を見分けることができる。	小テスト 定期テスト
	聖 歌	聖歌（毎月の歌）			○	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	学習態度

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 特進コース シラバス

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	選択等	必修
教科書	「高校生の音楽 1」(教育芸術社)						
副教材等	白表紙聖歌集、ノート、プリント、プリント用フラットファイル						

1 学習の到達目標

- ・音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。
- ・音楽に触れることで、感性を高め、豊かな情操を養う。
- ・より専門的な音楽の基礎を学ぶ。個性豊かに表現する力を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

音楽に触れることにより、音楽の美しさや楽しさを感じ取り、心豊かに生活できることを願っています。楽典の分野から合唱曲などを理解し、難しい分野もありますが色々な音楽を楽しみましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	【表現】 歌唱表現に関わる曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりや言葉の特性と曲種を理解している。曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけている。 【鑑賞】 鑑賞に関わる音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解している。 【共通事項】 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解している。	【表現】 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫することやどのように表すかについて表現意図をもっている。 【鑑賞】 知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【共通事項】 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。	【表現・鑑賞】 主体的・協働的に歌唱・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価方法	定期考査、歌唱テスト、ワークシート、小テスト	定期考査、ワークシート、小テスト	小テストの結果、ワークシートの内容で評価。また、積極的に歌唱に取り組む態度や発問に対する反応と発言、提出物の内容で評価。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期	合唱	合唱 「翼をください」他	○	○	○	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを持って表現する。	学習態度 定期テスト
	斉唱	斉唱・独唱 「Caro mio ben」 (イタリア語) 他	○	○	○	音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりや言葉の特性と曲種を理解している。曲にふさわしい発声、イタリア語の発音を理解し、表現している。	歌唱テスト 定期テスト
	鑑賞	鑑賞 バロック時代の音楽 (バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディ)	○	○	○	西洋音楽の時代背景を理解し関心を高め、バロック時代の特徴を聴き分けることができる。	ワークシート・定期考査
	楽典	楽典 音部記号、日本音名・ドイツ音名、音符・休符、拍子	○	○	○	音部記号や音符・休符を理解し、読譜に適應できる。	小テスト 定期テスト
	聖歌	聖歌(毎月の歌・礼拝の歌・降誕会法要の歌・学園歌)			○	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	学習態度
	合唱	合唱 コーラスコンクール曲	○	○	○	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを持って表現する。	学習態度 定期テスト

2 学 期	他				主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
	斉唱 「野ばら」 (ドイツ語・日本語)	○	○	○	音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりや言葉の特性と曲種を理解している。曲にふさわしい発声、ドイツ語の発音を理解し、表現している。	歌唱テスト 定期テスト
	鑑賞 古典派時代の音楽（モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン）	○	○	○	西洋音楽の時代背景を理解し、関心を高め、古典派時代の特徴を聴き分けることができる。	ワークシート・定期考査
	楽典 音程（幹音・派生音）	○	○	○	第1学期に学習した音部記号から音と音の幅を数えることができる。音程の種類を理解している。	小テスト 定期テスト
	聖歌（毎月の歌）			○	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	学習態度
3 学 期	合唱 「さびしいカシの木」 「乾杯の歌」他	○	○	○	歌詞の内容を把握し、自己のイメージを持って表現している。	学習態度 定期テスト
	鑑賞 ロマン派・近代現代時代の音楽（シューベルト、ショパン、ヴェルディ）	○	○	○	西洋音楽の時代背景を理解し関心を高め、ロマン派・近代現代時代の特徴を聴き分けることができる。	ワークシート・定期考査
	楽典 音階（調号）	○	○	○	各調性を理解し、＃や♭などの調号を理解。初出の楽譜の調性を見分けることができる。	小テスト 定期テスト
	聖歌（毎月の歌）			○	主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	学習態度

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	英語 コミュニケーションⅠ	単位数	5	選択等	必修
教科書	Grove English CommunicationⅠ (文英堂)						
副教材等	Grove English CommunicationⅠ授業ノート (文英堂) Grove English Communication1Ⅰワークブック (文英堂) 英単語ターゲット1400 (旺文社) MY WAY 総合英語 (三省堂) MY WAY 総合英語 文法&ワーク (三省堂) オンライン英会話 chatty						

1 学習の到達目標

英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて、使用される語句や文などにおいて、多くの支援を活用することによって、表現できる力を身に付ける。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

英語に接する時間が長ければ長いほど、力がつきます。

予習を必ずしましょう。

家庭学習として、英語を声に出して、発音練習を繰り返しましょう。

意味のわからない単語があったら、どんどん辞書で意味調べをしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の4技能（話す、書く、読む）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の働きや役割などを理解している。	場面・目的・状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを表現しようとしている。言語やその情景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・定期考査	・学習状況 ・確認テスト ・定期考査	・学習状況 ・確認テスト ・定期考査

法	・発問への対応	・発問への対応 ・オンライン英会話	・発問への対応 ・オンライン英会話
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間		Lesson1<Grove> Lesson2<Grove> 文型 時制（進行形等） <MY WAY> オンライン英会話	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	I：時制、基本的な文構造、様々な名詞の働きをする表現を理解する。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
1 学 期 期 末		Lesson3<Grove> Lesson4<Grove> 時制（完了形） <MY WAY> オンライン英会話	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	I：目的語の働きをする that 節、完了時制、文型を理解する。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
2 学 期 中 間		Lesson5<Grove> Lesson6<Grove> 助動詞<MY WAY> オンライン英会話	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	I：関係詞、to 不定詞、助動詞を含む受け身、名詞を修飾する分詞の使い方を理解する。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
2 学 期 期 末		Lesson7<Grove> Lesson8<Grove> 動詞の態 <MY WAY> オンライン英会話	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	I：形式主語構文、文型、動詞の後が「O+to 不定詞」になる形、比較表現を理解する。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
		Lesson9<Grove>	○	○	○	I：関係副詞、仮定法、完了進行形を理	学習態度

3 学 期		不定詞＜ MY WAY ＞ オンライン英会話	○ ○	○ ○	○ ○	解する。 Ⅱ：Listening、dictation で内容が把握できているか。 Ⅲ：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	確認テスト 発問への反応 課題
-------------	--	---------------------------	--------	--------	--------	--	--------------------------------------

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科専攻選択コース シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	ブラッシュアップ English	単位数	1	選択等	必修
教科書	なし						
副教材	MY WAY マイウェイ総合英語 (三省堂) MY WAY マイウェイ総合英語 文法&ワーク (三省堂) プリントなど						

1 学習の到達目標

英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。英文法を中心に問題演習を重ね、目標とする英語検定の級に合格する。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

基礎的な語彙力と文法力を高めて、読む・聞く・書く・話すことでの4技能を高められるように取り組みましょう。積極的に英語検定の受験をして、より高い受験級の合格を目指しましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の4技能(話す、書く、読む)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の働きや役割などを理解している。	場面・目的・状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを表現しようとしている。言語やその情景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 発問への対応	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 発問への対応 ・ 英検の結果	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 発問への対応 ・ 英検の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第一章 第二章	動詞の種類と時制① 動詞の種類と時制② ＜MY WAY 総合英語＞	○	○	○	I：時制、進行形、未来表現の形・使い方を理解する。 完了形、完了進行形、文の要素、第1文型～第5文型、There[Here]+be 動詞+主語について理解する。 II：英作文等、英語で表現する力を養う。 III：課題について、自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
1 学期 期末	第三章 英検	助動詞 ＜MY WAY 総合英語＞ 英語検定団体受験対策	○	○	○	I：英語の総合的な文法力、読み、書く能力、話す能力を養う。 基本的な助動詞と、「助動詞+have+過去分詞」について理解する。 II：英作文等、英語で表現する力を養う。 III：課題について、自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
2 学期 中間	英検 第四章	英語検定団体受験対策 受動態 ＜MY WAY 総合英語＞	○	○	○	I：英語の総合的な文法力、読み、書く能力、話す能力を養う。 基本的な受動態の形や by を使わない受動態、いろいろな受動態の形（句動詞、完了形、進行形）について理解する。 II：Listening で内容が把握できているか。 英作文等、英語で表現する力を養う。 III：課題について、自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
2 学期 期末	第五章 第六章	不定詞 動名詞 ＜MY WAY 総合英語＞	○	○	○	I：基本的な不定詞(名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法)や自動詞+不定詞、SVO+不定詞、疑問詞+不定詞、いろいろな形の不定詞(進行形、受動態、完了形、否定形)を理解する。 基本的な動名詞やいろいろな形の動名詞(否定形、受動態、完了形、意味上の主語)を理解する。 II：英作文等、英語で表現する力を養う。 III：課題について、自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題 英検の結果

3 学 期	第七章	分詞 ＜ MY WAY 総合英語＞	○	○	○	I：基本的な分詞(現在分詞や過去分詞)や 知覚動詞・使役動詞と分詞、分詞構 文を理解する。 II：英作文等、英語で表現する力を養う。 III：課題について、自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題 英検の結果
-------------	-----	----------------------	---	---	---	---	---

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	4	選択等	必修
教科書	Grove English CommunicationⅠ（文英堂）						
副教材等	Grove English CommunicationⅠ FILL-IN NOTEBOOK 授業ノート（文英堂） Grove English CommunicationⅠ ワークブック（文英堂） 英単語ターゲット 1400（旺文社） CHATTY 英会話						

1 学習の到達目標

ア	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
イ	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
ウ	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
エ	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
オ	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることができる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

英文中の基礎文法や内容を理解していき、情報を的確に整理しながら英語を学びましょう。読む、聞く、話す、書くことで4技能をそれぞれ駆使して英語を学んでいきましょう。間違いや失敗を恐れずに積極的に英語を使う姿勢を大事にしていきましょう。
--

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
評 価 方 法	小テスト・定期考査	小テスト・定期考査 オンライン英会話	授業中の活動、発表 オンライン英会話 課題の提出 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		Lesson 1 Communication with People Around the World	○	○	○	[題材・内容] ・日常表現におけるしぐさについて知る. ・よいコミュニケーションのために何が必要であるかを理解する. ・コミュニケーションについて意見を交換したり、説明したりする. [文型・文法事項] 主部と述部 / 「S+V」「S+V+C」「S+V+O」 / 現在・過去・未来を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする.	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
		Lesson 2 Pets and Humans: Together Through Time	○	○	○	[題材・内容] ・人気のあるペットについて知る. ・長い歴史における人間とペットの関係の変化について理解する. ・ペットや動物について意見を交換する. [文型・文法事項] 名詞句 / to 不定詞(名詞的用法) / 動名詞を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする.	
1 学期 期末		Lesson 3 Musubi—Ties and Knots	○	○	○	[題材・内容] ・日常のさまざまなシーンにおける結びについて知る. ・古来、日本人が結びに込めたさまざまな願いについて理解する. ・結びについて意見を交換したり、意味を説明したりする. [文型・文法事項] 「S+V+O1+O2」 / 「S+V+O+C」 / 進行形を理解して、聞いたり、読んだり、	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題

		Lesson 4 The power of Mushrooms	○	○	○	書いたり，話したりする． [題材・内容] ・キノコを用いたいろいろな料理について知る． ・自然界においてキノコが果たす役割について理解する． ・日本の森やキノコなどについて意見を交換する． [文型・文法事項] 現在完了形 / 過去完了形 / 「S+V+O (=that 節)」を理解して，聞いたり，読んだり，書いたり，話したりする．	
2 学 期 中 間		Lesson 5 Braille Neue: Connecting Dots with Lines	○	○	○	[題材・内容] ・日常生活で見られる点字等の工夫について知る． ・点字とデザインについて読み取る． ・デザインについて意見を交換したり，インタビューに答えたりする． [文型・文法事項] 受け身 / 分詞の形容詞的用法 / 助動詞を含む受け身 / to 不定詞（形容詞的用法）を理解して，聞いたり，読んだり，書いたり，話したりする．	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
		Lesson 6 Is This Meat Real or Fake?	○	○	○	[題材・内容] ・日本人の好きな代表的な料理について知る． ・食糧問題・環境問題を解決するために代替肉の果たす役割について理解する． ・食料品生産の新しい技術について意見を交換したり，インタビューに答えたりする． [文型・文法事項] 関係代名詞（主格） / to 不定詞（副詞的	

						用法) / 関係代名詞 (目的格) / 関係代名詞 what を理解して, 聞いたり, 読んだり, 書いたり, 話したりする.	
2 学 期 期 末		Lesson 7 Plastic Polluting Our Oceans	○	○	○	[題材・内容] ・日本のペットボトルの年間出荷本数の推移について知る. ・プラスチックごみが海や海洋生物に与える影響について理解する. ・プラスチックごみが環境に与える影響について意見を交換する. [文型・文法事項] 比較 / 「It is+～ (for～) + to 不定詞」 / 「 S+V+O1+O2 (=that 節) / 「S+V+O+to 不定詞」を理解して, 聞いたり, 読んだり, 書いたり, 話したりする. [題材・内容] ・マンガで用いられる独特な表現について知る. ・世界に広がる日本のマンガ文化について理解する. ・マンガについて意見を交換したり, 会話したりする. [文型・文法事項] 「S+V+O+ C(=原形不定詞)」 / 「It is+ 形容詞 [名詞] +that 節」 / 「S+V+O(=疑問詞節など)」 / 「S+V+O+C(=現在分詞)を理解して, 聞いたり, 読んだり, 書いたり, 話したりする.	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
		Lesson 8 Manga: A Global Hit!	○	○	○		
3 学 期		Lesson 9 The Mysteries and Secrets of Petra	○	○	○	[題材・内容] ・諸外国の文化の側面を知る. ・ペトラ遺跡の歴史・文化について理解する.	学習態度 確認テスト 発問への反応

		Lesson 10 Greta Thunberg: No One Is Too Small to Make a Difference	○	○	○	・ペトラ遺跡の謎について意見を交換する. [文型 ・ 文法事項] 関係副詞 (when, where) / 関係副詞 (why, how) / 仮定 法過去 / 完了進行形を理解 して, 聞いたり, 読んだり, 書いたり, 話したりする. [題材 ・ 内容] ・諸外国の文化の側面を知る. ・ペトラ遺跡の歴史 ・ 文化について理解する. ・ペトラ遺跡の謎について意見を交換する. [文型 ・ 文法事項] 関係副詞 (when, where) / 関係副詞 (why, how) / 仮定 法過去 / 完了進行形を理解 して, 聞いたり, 読んだり, 書いたり, 話したりする.	課題
--	--	---	---	---	---	--	----

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 特進コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーション I	単位数	5	選択等	必修
教科書	New Edition Grove English Communication I（文英堂）						
副教材等	新ユメタン 0（アルク） 英単語ターゲット 1900（旺文社） Sprinter English Grammar in 33 stages（数研出版） チャート式 基礎からの新総合英語（数研出版）						

1 学習の到達目標

日頃から小テストを実施することにより短期的な目標をもち、それを継続していくことで英語学習を習慣化していきます。そして、中学の既習事項を確認しながら基本事項をしっかりとおさえ、長文読解・英文法などを総合的に学習します。説明、評論、物語、随筆などあらゆる形態の文章を読みすすめることで、英文に自体に慣れ大意を理解できること、また速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方ができるようになることを目指します。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業内でたくさんの英文に触れ、語彙力を伸ばすとともに、付随する様々な事柄に関心を持ち、自らすすんで探究する姿勢をもちましょう。言語学習は、毎日継続して関わり習慣化していくことが大切です。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の 4 技能（話す、書く、聞く、読む）を実践すべく、その土台となる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・提出課題 ・学習状況 ・確認テスト ・定期考査	・プレゼン、発表 ・定期考査 ・提出課題 ・確認テスト	・プレゼン、発表 ・オンライン英会話 ・発問への対応 ・課題への取り組み、積極性
上記に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		1) Language and Culture 2) That's your opinion オンライン英会話 英語検定対策	○	○	○	[題材・内容] 「言語学習の重要性について。」 「第二言語としての英語習得の意義。」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] ・文の種類 ・文型「S+V」「S+V+C」「S+V+O」「S+V+O1+O2」「S+V+O+C」 ・基本時制(現在、過去、未来)、進行形 ・前置詞と接続 as の用法。	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査 オンライン英会話
1 学期 期末		3) English English 4) 広がるロボットの用途 5) 自転車の進化 6) ペットを買う理由 オンライン英会話 模試対策 英語検定対策	○	○	○	[題材・内容] 「アメリカと日本の差異について考察し、自国の文化と慣習を振り返る。」 「現代のロボットと人の関わり方。」 「自転車の歴史に関する説明。」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] 完了形（現在完了形／過去完了形／未来完了形／完了進行形） 助動詞	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査 オンライン英会話

2 学 期 中 間		7) 大統領の日 8) 環境のためにできること 9) 人生を楽しむには 10) 奇妙な漂流記 オンライン英会話	○	○	○	「ジョージ・ワシントンの誕生日にまつわる説明文」 「浪費が与える環境への影響」 「世界と比較する日本人の労働時間」 「プラスチック製の玩具漂流事件」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] 受動態（否定文／疑問文） 不定詞（名詞的用法／形容詞的用法／副詞的用法／形式主語／原形不定詞「S+V+O+C(=原形不定詞)」)	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査 オンライン英会話
2 学 期 期 末		11) サイとロバの友情 12)ヘリコプターペアレント 13)「彼女たち」の短い裕福な生涯 14) 大衝撃音の正体は？ オンライン英会話 模試対策 英語検定対策	○	○	○	[題材・内容] 「非常に異なった生き物間で関係が作り上げられる事例」 「ヘリコプターペアレントと呼ばれる子どもを管理・監視する両親の実態」 「ショーウィンドウに並ぶマネキンについて」 「インドネシアで起こった噴火音が3,200 キロメートル離れた場所に到達した事例」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] 動名詞 分詞（現在分詞／過去分詞） /分詞構文（「～なので」、「～するとき」）/ 数量表現	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査 オンライン英会話

3 学 期		15) 小さな偏見 16) 月の誕生 17) 正直な官僚 オンライン英会話 模試対策 英語検定対策	○	○	○	[題材・内容] 「外見から与えられる偏見の目について考え、議論する」 「月の誕生説についての考察文」 「庁舎建設をめぐる問題」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] 関係詞／関係副詞/ 仮定法／仮定法過去・仮定法過去完了／関係副詞の非制限用法	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 学年末考査 オンライン英会話
-------------	--	--	---	---	---	---	---

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 特進コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	論理・表現 I	単位数	2	選択等	必修
教科書	EARTHRISE English Logic and Expression I Standard（数研出版）						
副教材等	Listening Laboratory Basic α（数研出版）						
	Listening Laboratory Basic β（数研出版）						

1 学習の到達目標

(1) 話すこと〔やり取り〕

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと〔発表〕

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

(4) 聞くこと

毎時間にリスニング用副教材を用いて、基礎的なリスニング力を修得する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

積極的にスピーチ、プレゼンテーションディベート、ディスカッションを英語でするためには、まずは文法力や語彙力の修得により、正しい英文を発信できることが大切です。文法事項や語彙を確認しながら、教科書を勉強していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既 有の知識及び技能と関連付け たり活用したりする中で、概念 等として理解したり、技能を習 得したりしている。	知識及び技能を活用して課題 を解決する等のために必要な 思考力、判断力、表現力等を身 に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思 考力、判断力、表現力等を身に 付けたりすることに向けた粘 り強い取組の中で、自らの学習 を調整しようとしている。
評 価 方 法	・提出課題 ・学習状況 ・確認テスト ・定期考査	・ディスカッション、発表 ・提出課題 ・確認テスト ・定期考査	・ディスカッション、発表 ・発問への対応 ・課題への取り組み、積極性
上記に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間		Part 1： Basic Expressions Lesson 1 Communication with People Around the World	○	○	○	[題材・内容] 「紹介」をテーマに、5つの文型を用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) クラスメートに名前と住んでいる場所、中学校のときのクラブ活動について質問し合う。 B. Speak (Presentation) クラスメートについての発表を20秒程度で行う。 C. Write 40 語程度で自己紹介文を書く。	

		Lesson 2 How do you spend your weekend?	○	○	○	[題材・内容] 「週末の過ごし方」をテーマに、動詞の現在形・過去形・未来を表す表現を用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 自分が週末にしたことについてクラスメートとやりとりして、情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) 自分が週末にしたことについて20秒程度で発表する。 C. Write 自分の休日の予定に関するテキストメッセージを 30 語程度で書く。	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 週末課題 中間考査
		Lesson 3 Where did you go on vacation?	○	○	○	[題材・内容] 「旅行」をテーマに、完了形（現在完了形／過去完了形）を用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 「これまで自分が訪れた場所の中で最もよかった場所」についてクラスメートとやりとりして、情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) 「これまで自分が訪れた場所の中で最もよかった場所」について20秒程度で発表する。 C. Write 「最近自分が行った旅行に関するブログ」を 40 語程度で書く。	
		Lesson 4 How can I get there?	○	○	○	[題材・内容] 「道案内」「謝罪のメール」をテーマに、助動詞can、may、must、have toを用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) クラスメートとルートを案内するロールプレイを行う。 B. Speak (Presentation)	

1 学 期 期 末		Lesson 5 Would you like to come with me?	○	○	○	ルート案内のロールプレイをクラスで実演する。 C. Write 謝罪のメール文を 40 語程度で書く。 [題材・内容] 「部活のイベント」「後悔していること」をテーマに、would, could, may[might], should have done, must have doneを用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 出席予定のイベントにクラスメートを誘うロールプレイを行う。 B. Speak (Presentation) クラスメートをイベントに誘うロールプレイをクラスで実演する。 C. Write 自分が後悔していることについて伝える文章を 30 語程度で書く。	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 週末課題 期末考査
		Lesson 6 Something really Japanese	○	○	○	[題材・内容] 「日本文化」をテーマに、〈be動詞＋過去分詞〉を用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 自分が選んだ商品についてクラスメートとやりとりして、情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) 自分が選んだ商品について20秒程度で発表する。 C. Write 交換留学生の友だちを祭に誘う E メールを 40 語程度で書く。	
		Lesson 7 Plastic Polluting Our Oceans	○	○	○	[題材・内容] ・日本のペットボトルの年間出荷本数の推移について知る。 ・プラスチックごみが海や海洋生物に与える影響について理解する。 ・プラスチックごみが環境に与える影響	

2 学 期 中 間					について意見を交換する。 [文型・文法事項] 比較/It is+～（for～）+ to 不定詞/ S+V+O1+O2 (=that節) /S+V+O+to 不定詞」を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする [題材・内容] 「学校生活」をテーマに、〈want+O+to do〉，〈let[make]+O+do〉などを用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 部活動に関してクラスメートとインタビューし合う。 B. Speak (Presentation) 部活動に関するインタビューの会話をクラスで実演する。 C. Write 学校行事に関するスピーチ原稿を 40 語程度で書く。	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 週末課題 中間考査
	Lesson 8 Let's enjoy school life!	○	○	○	[題材・内容] 「学校生活」をテーマに、〈want+O+to do〉，〈let[make]+O+do〉などを用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 部活動に関してクラスメートとインタビューし合う。 B. Speak (Presentation) 部活動に関するインタビューの会話をクラスで実演する。 C. Write 学校行事に関するスピーチ原稿を 40 語程度で書く。	
	Lesson 9 Are you eco-friendly?	○	○	○	[題材・内容] 「環境問題」をテーマに、doing (動名詞)を用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 環境保護のためにできることについてクラスメートとやり取りして、情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) 環境保護のために自分がしていることについて30秒程度で発表する。 C. Write 環境保護についてのスピーチ原稿を 40 語程度で書く。	

2 学 期 期 末	Lesson 10 What sports do you like?	○	○	○	[題材・内容] 「スポーツ」をテーマに、doing/done (分詞) を用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) スポーツイベントについてクラスメートとインタビューし合う。 B. Speak (Presentation) スポーツイベントについてのインタビューの会話をクラスで実演する。 C. Write 自分が最近したスポーツについてのブログを 40 語程度で書く。	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 週末課題 期末考査
	Lesson 11 That's new to me!	○	○	○	[題材・内容] さまざまな国の労働時間や祝日の数」「野菜とくだものの違い」をテーマに、〈see+O+doing〉、strictly speakingなどを用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) さまざまな国の労働時間や祝日の数についての情報をもとに、クラスメートとやり取りしてその情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) さまざまな国の労働時間や祝日の数について30秒程度で発表する。 C. Write 野菜とくだものの違いについてのパラグラフを 40 語程度で書く。	
	Lesson 12 Which Nobel Prize winner do you admire most?	○	○	○	[題材・内容] 「日本人のノーベル賞受賞者」「自分が尊敬する人物」をテーマに、who、whichなどを用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) ノーベル賞受賞者についてクラスメートとやりとりして、情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation)	

		Lesson 13 I'm interested in history	○	○	○	自分が選んだノーベル賞受賞者について20秒程度で発表する。 C. Write 自分の尊敬する人についてのパラグラフを 30 語程度で書く。 [題材・内容] 「歴史的な人物・建物」をテーマに、when、where、howなどを用いて表現する。各3領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 歴史上の偉人についてクラスメートとやりとりして、情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) 自分が選んだ歴史上の偉人について30秒程度で発表する。 C. Write 日本の歴史的建造物について紹介するパラグラフを 40 語程度で書く。	
3 学 期		Lesson 14 Various countries around the world	○	○	○	[題材・内容] 「世界の国々」をテーマに、as as er[more ～～]、not as as...、est[most などを用いて表現する。各 3 領域につき以下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 自分が行きたい国などについてクラスメートとやりとりして、情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) 自分が行きたい国などについて 30 秒程度で発表する。 C. Write 2つの都市の気候の違いについて説明するレポートを 40 語程度で書く。	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 週末課題 学年末考査
		Lesson 15 What job are you interested in?	○	○	○	[題材・内容] 「未来の自分」をテーマに、If I 過去形 [were] ～、I would [could]...、If I had done ～、I would [could] have done...などを用いて表現する。各3領域につき以	

					下を目標とする。 A. Speak (Interaction) 自分が興味のある職業についてクラスメートとやりとりして、情報を伝え合う。 B. Speak (Presentation) 自分が興味のある職業について30秒程度で発表する。 C. Write 26 歳の自分自身を想像して説明する文章を 40 語程度で書く。	
--	--	--	--	--	--	--

※上記以外にも副教材としてのリスニング演習と、特進コースとして大学入試に対応するための基礎学力強化を、補充教材を用いて行う。

2024 年度 相愛高等学校 1 年 音楽科 シラバス

【高校共通】

教科	家庭科	科目	家庭基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	未来へつなぐ 家庭基礎 365			(教育図書)			
副教材等	未来へつなぐ 家庭基礎 365 マスターノート			(教育図書)			
	家庭科 55 デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ ファイル (プリント保存用)			(教育図書)			

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協同し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に地域の生活を想像する資質・能力の育成を目指す。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

家庭生活に関心を持ち、問題意識を持って生活して欲しい。座学・実習を通して学んだ知識や技術を実生活の中で幅広く役に立ててください。

授業では自分では知らなかった新しい発見を追求し、常に新鮮な気持ちで臨んでください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住、生活設計などに関する知識や技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住、生活設計などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住、生活設計などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
評 価 方 法	行動観察、定期考査、製作品、ワークシート、ワーク、レポート など	行動観察、定期考査、製作品、ワークシート、ワーク、レポート など	行動観察、ワークシート、ワーク、レポート、発問への反応 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期	衣 生 活	《実習》 聖典入れ製作	○		○	・高校生活で使用する聖典入れ製作を通して、生活に役立つ物作りを主体的に取り組もうとしている。	実技作品 行動観察 ワークシート
	生 活 設 計 1 自 立	【A 編】 第1章 生涯の生活設計 1 1 あなたの将来は？ 第2章 1 青年期の自立と家族・ ・ 家庭 1 自立への一歩 2 家族・家庭 3 将来の自分の家庭	○	○	○	・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 ・青年期の5つの自立について理解している。 ・職業の種類や意義についても理解し、自分の考えをまとめることができる。 ・自分の一生をどう送るか、将来を想像しながら自分の問題として捉えようとしている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
	高 齢 社 会	第4章 高齢期の生活と福祉 1 高齢期とは？ 2 高齢化する日本を生 きる	○	○		・高齢化が進む現状や高齢者を取り巻く社会について知り、関心を持つ。 ・高齢者の立場に立って、未来の自分の生活として捉え、意欲的に学習に取り組もうとしている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
	保 育	第3章 子どもの生活と保育 1 子どもの成長の特徴 2 子どもとかわる 《実習》調理実習①	○	○	○	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義や文化について理解している。 ・子どもを取り巻く環境整備や社会全体で子育てを支援する必要性を理解している。 ・幼児食の調理実習を通して、調理の安全、衛生について関心を持ち、基礎的な技術を身に付けている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
夏 休 み	課 題	ホームプロジェクト	○	○	○	・衣食住、保育、生活時間など自分に関心のあることをテーマに設定し、解決に向けて実践することができる。	レポート 発表
2 学 期	保 育	3 これからの子育て 《実習》保育実習 子どものおもちゃ作り	○	○	○	・子どもの人間形成には、保育者との関わり、周りの人との関りが重要であることが理解している。 ・子どもの遊びの意義を理解し、幼児に適したおもちゃ作りに取り組もうとしている。	行動観察 実技作品 ワークシート

					・自分が将来、保育に関わる存在であることを理解し、積極的に関わろうとしている。		
	食生活	【B編】 第1章 食生活と健康 1 なぜ、ごはんを食べるの？ 2 何を食べているの？ 3 安全に食べよう 《実習》調理実習②	○	○	○	・自分の食生活に関心を持つことができる。 ・栄養素の働きを理解し、バランスのとれた食生活へつなげることができる。 ・調理に関する基本的な技術を身に付け、食事のマナーについても理解しようとしている。	行動観察 ワーク 定期考査
	衣生活	第2章 衣生活と健康 1 衣服の役割 2 今後の衣生活	○	○		・衣服の素材、性能などが理解できる。 ・衣服の製造には多くのエネルギーが使われることを知ることができる。 ・衣服の原料から廃棄までの流れを知り、環境などの知識を生かして、自分の衣生活を改善しようとしている。	行動観察 ワーク 定期考査
3 学期	住生活	第3章 住生活と環境 1 住まいとは 2 住まいを計画する 《実習》平面計画 3 持続可能な住まい		○	○	・住宅の機能について理解し、住まいの計画の仕方を工夫し実践しようとしている。 ・住居の安全性や防災についての知識を身に付けている。	行動観察 作品 ワークシート 定期考査
	経済・消費行動・環境	【C編】 第1章生活における経済の計画 1 将来に向けての家計 2 将来の経済計画 第2章 消費生活と意思決定 1 かしこい消費者になろう 第3章持続可能なライフスタイルと環境 1 未来の地球環境は大丈夫？ 2 私たちにできることは何だろうか？	○	○	○	・生涯を見通した経済計画について必要な情報の収集や整理が適切にできる。 ・将来の経済的なリスクについて、考えようとしている。 ・消費者問題について自分ごととして捉えることができる。 ・環境についての基礎的な知識を身に付けている。 ・SDGsと日々の生活とを関連付けることができる。	行動観察 ワーク 定期考査
	生活設計	生涯の生活設計 2 1 自分の人生を豊かにしよう	○	○	○	・経済的な自立に向けて、短期的な経済設計、長期的な経済設計が立てられるようになる。	行動観察 ワークシート

	計 2	2 ライフプランニング 《実習》ライフサイク ルゲーム				・自分らしいライフスタイルの実現を目 指して、自分の将来について具体的に考 えようとしている。	班活動での 取り組み 定期考査
--	--------	-----------------------------------	--	--	--	---	-----------------------

2024 年度 相愛高等学校 1 年 専攻選択コース シラバス

【高校共通】

教科	家庭科	科目	家庭基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	未来へつなぐ 家庭基礎 365			(教育図書)			
副教材等	未来へつなぐ 家庭基礎 365 マスターノート			(教育図書)			
	家庭科 55 デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ ファイル (プリント保存用)			(教育図書)			

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協同し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に地域の生活を想像する資質・能力の育成を目指す。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

家庭生活に関心を持ち、問題意識を持って生活して欲しい。座学・実習を通して学んだ知識や技術を実生活の中で幅広く役に立ててください。

授業では自分では知らなかった新しい発見を追求し、常に新鮮な気持ちで臨んでください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住、生活設計などに関する知識や技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住、生活設計などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住、生活設計などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
評 価 方 法	行動観察、定期考査、製作品、ワークシート、ワーク、レポート など	行動観察、定期考査、製作品、ワークシート、ワーク、レポート など	行動観察、ワークシート、ワーク、レポート、発問への反応 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I : 知識・技能 II : 思考・判断・表現 III : 主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期	衣 生 活	《実習》 聖典入れ製作	○		○	・高校生活で使用する聖典入れ製作を通して、生活に役立つ物作りを主体的に取り組もうとしている。	実技作品 行動観察 ワークシート
	生 活 設 計 1 自 立	【A 編】 第1章 生涯の生活設計 1 1 あなたの将来は？ 第2章 1 青年期の自立と家族・ ・ 家庭 1 自立への一歩 2 家族・家庭 3 将来の自分の家庭	○	○	○	・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 ・青年期の5つの自立について理解している。 ・職業の種類や意義についても理解し、自分の考えをまとめることができる。 ・自分の一生をどう送るか、将来を想像しながら自分の問題として捉えようとしている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
	高 齢 社 会	第4章 高齢期の生活と福祉 1 高齢期とは？ 2 高齢化する日本を生 きる	○	○		・高齢化が進む現状や高齢者を取り巻く社会について知り、関心を持つ。 ・高齢者の立場に立って、未来の自分の生活として捉え、意欲的に学習に取り組もうとしている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
	保 育	第3章 子どもの生活と保育 1 子どもの成長の特徴 2 子どもとかわる 《実習》調理実習①	○	○	○	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義や文化について理解している。 ・子どもを取り巻く環境整備や社会全体で子育てを支援する必要性を理解している。 ・幼児食の調理実習を通して、調理の安全、衛生について関心を持ち、基礎的な技術を身に付けている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
夏 休 み	課 題	ホームプロジェクト	○	○	○	・衣食住、保育、生活時間など自分に関心のあることをテーマに設定し、解決に向けて実践することができる。	レポート 発表
2 学 期	保 育	3 これからの子育て 《実習》保育実習 子どものおもちゃ作り	○	○	○	・子どもの人間形成には、保育者との関わり、周りの人との関りが重要であることが理解している。 ・子どもの遊びの意義を理解し、幼児に適したおもちゃ作りに取り組もうとしている。	行動観察 実技作品 ワークシート

					・自分が将来、保育に関わる存在であることを理解し、積極的に関わろうとしている。		
	食生活	【B編】 第1章 食生活と健康 1 なぜ、ごはんを食べるの？ 2 何を食べているの？ 3 安全に食べよう 《実習》調理実習②	○	○	○	・自分の食生活に関心を持つことができる。 ・栄養素の働きを理解し、バランスのとれた食生活へつなげることができる。 ・調理に関する基本的な技術を身に付け、食事のマナーについても理解しようとしている。	行動観察 ワーク 定期考査
	衣生活	第2章 衣生活と健康 1 衣服の役割 2 今後の衣生活	○	○		・衣服の素材、性能などが理解できる。 ・衣服の製造には多くのエネルギーが使われることを知ることができる。 ・衣服の原料から廃棄までの流れを知り、環境などの知識を生かして、自分の衣生活を改善しようとしている。	行動観察 ワーク 定期考査
3 学期	住生活	第3章 住生活と環境 1 住まいとは 2 住まいを計画する 《実習》平面計画 3 持続可能な住まい		○	○	・住宅の機能について理解し、住まいの計画の仕方を工夫し実践しようとしている。 ・住居の安全性や防災についての知識を身に付けている。	行動観察 作品 ワークシート 定期考査
	経済・消費行動・環境	【C編】 第1章生活における経済の計画 1 将来に向けての家計 2 将来の経済計画 第2章 消費生活と意思決定 1 かしこい消費者になろう 第3章持続可能なライフスタイルと環境 1 未来の地球環境は大丈夫？ 2 私たちにできることは何だろうか？	○	○	○	・生涯を見通した経済計画について必要な情報の収集や整理が適切にできる。 ・将来の経済的なリスクについて、考えようとしている。 ・消費者問題について自分ごととして捉えることができる。 ・環境についての基礎的な知識を身に付けている。 ・SDGsと日々の生活とを関連付けることができる。	行動観察 ワーク 定期考査
	生活設計	生涯の生活設計 2 1 自分の人生を豊かにしよう	○	○	○	・経済的な自立に向けて、短期的な経済設計、長期的な経済設計が立てられるようになる。	行動観察 ワークシート

	計 2	2 ライフプランニング 《実習》ライフサイク ルゲーム				・自分らしいライフスタイルの実現を目 指して、自分の将来について具体的に考 えようとしている。	班活動での 取り組み 定期考査
--	--------	-----------------------------------	--	--	--	---	-----------------------

2024 年度 相愛高等学校 1 年 特進コース シラバス

【高校共通】

教科	家庭科	科目	家庭基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	未来へつなぐ 家庭基礎 365			(教育図書)			
副教材等	未来へつなぐ 家庭基礎 365 マスターノート			(教育図書)			
	家庭科 55 デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ ファイル (プリント保存用)			(教育図書)			

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協同し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に地域の生活を想像する資質・能力の育成を目指す。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

家庭生活に関心を持ち、問題意識を持って生活して欲しい。座学・実習を通して学んだ知識や技術を実生活の中で幅広く役に立ててください。

授業では自分では知らなかった新しい発見を追求し、常に新鮮な気持ちで臨んでください。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住、生活設計などに関する知識や技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住、生活設計などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住、生活設計などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
評 価 方 法	行動観察、定期考査、製作品、ワークシート、ワーク、レポート など	行動観察、定期考査、製作品、ワークシート、ワーク、レポート など	行動観察、ワークシート、ワーク、レポート、発問への反応 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I : 知識・技能 II : 思考・判断・表現 III : 主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期	衣 生 活	《実習》 聖典入れ製作	○		○	・高校生活で使用する聖典入れ製作を通して、生活に役立つ物作りを主体的に取り組もうとしている。	実技作品 行動観察 ワークシート
	生 活 設 計 1 自 立	【A 編】 第1章 生涯の生活設計 1 1 あなたの将来は？ 第2章 1 青年期の自立と家族・ ・ 家庭 1 自立への一歩 2 家族・家庭 3 将来の自分の家庭	○	○	○	・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 ・青年期の5つの自立について理解している。 ・職業の種類や意義についても理解し、自分の考えをまとめることができる。 ・自分の一生をどう送るか、将来を想像しながら自分の問題として捉えようとしている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
	高 齢 社 会	第4章 高齢期の生活と福祉 1 高齢期とは？ 2 高齢化する日本を生 きる	○	○		・高齢化が進む現状や高齢者を取り巻く社会について知り、関心を持つ。 ・高齢者の立場に立って、未来の自分の生活として捉え、意欲的に学習に取り組もうとしている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
	保 育	第3章 子どもの生活と保育 1 子どもの成長の特徴 2 子どもとかわる 《実習》調理実習①	○	○	○	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義や文化について理解している。 ・子どもを取り巻く環境整備や社会全体で子育てを支援する必要性を理解している。 ・幼児食の調理実習を通して、調理の安全、衛生について関心を持ち、基礎的な技術を身に付けている。	行動観察 ワーク ワークシート 定期考査
夏 休 み	課 題	ホームプロジェクト	○	○	○	・衣食住、保育、生活時間など自分に関心のあることをテーマに設定し、解決に向けて実践することができる。	レポート 発表
2 学 期	保 育	3 これからの子育て 《実習》保育実習 子どものおもちゃ作り	○	○	○	・子どもの人間形成には、保育者との関わり、周りの人との関りが重要であることが理解している。 ・子どもの遊びの意義を理解し、幼児に適したおもちゃ作りに取り組もうとしている。	行動観察 実技作品 ワークシート

					・自分が将来、保育に関わる存在であることを理解し、積極的に関わろうとしている。		
	食生活	【B編】 第1章 食生活と健康 1 なぜ、ごはんを食べるの？ 2 何を食べているの？ 3 安全に食べよう 《実習》調理実習②	○	○	○	・自分の食生活に関心を持つことができる。 ・栄養素の働きを理解し、バランスのとれた食生活へつなげることができる。 ・調理に関する基本的な技術を身に付け、食事のマナーについても理解しようとしている。	行動観察 ワーク 定期考査
	衣生活	第2章 衣生活と健康 1 衣服の役割 2 今後の衣生活	○	○		・衣服の素材、性能などが理解できる。 ・衣服の製造には多くのエネルギーが使われることを知ることができる。 ・衣服の原料から廃棄までの流れを知り、環境などの知識を生かして、自分の衣生活を改善しようとしている。	行動観察 ワーク 定期考査
3 学期	住生活	第3章 住生活と環境 1 住まいとは 2 住まいを計画する 《実習》平面計画 3 持続可能な住まい		○	○	・住宅の機能について理解し、住まいの計画の仕方を工夫し実践しようとしている。 ・住居の安全性や防災についての知識を身に付けている。	行動観察 作品 ワークシート 定期考査
	経済・消費行動・環境	【C編】 第1章生活における経済の計画 1 将来に向けての家計 2 将来の経済計画 第2章 消費生活と意思決定 1 かしこい消費者になろう 第3章持続可能なライフスタイルと環境 1 未来の地球環境は大丈夫？ 2 私たちにできることは何だろうか？	○	○	○	・生涯を見通した経済計画について必要な情報の収集や整理が適切にできる。 ・将来の経済的なリスクについて、考えようとしている。 ・消費者問題について自分ごととして捉えることができる。 ・環境についての基礎的な知識を身に付けている。 ・SDGsと日々の生活とを関連付けることができる。	行動観察 ワーク 定期考査
	生活設計	生涯の生活設計 2 1 自分の人生を豊かにしよう	○	○	○	・経済的な自立に向けて、短期的な経済設計、長期的な経済設計が立てられるようになる。	行動観察 ワークシート

	計 2	2 ライフプランニング 《実習》ライフサイク ルゲーム				・自分らしいライフスタイルの実現を目 指して、自分の将来について具体的に考 えようとしている。	班活動での 取り組み 定期考査
--	--------	-----------------------------------	--	--	--	---	-----------------------

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	教養	科目	吹奏楽	単位数	1	選択等	選択
教科書	なし						
副教材等	楽器・楽譜						

1 学習の到達目標

・演奏を通じて自己表現が出来るようになる。 ・楽器への知識を深め演奏技術を高める。 ・楽曲への理解を深められるようになる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

演奏することにより、自己表現する力を身につけ聴いて頂く方に感動を伝えられるようになりましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	・演奏する楽器に関心を持つ。 ・意欲的に音質向上に向け取り組む。	・楽曲や時代背景について知識を深め、自らの演奏技術によって表現する。 ・楽譜に書かれている楽語について理解を深める。	・発言等を積極的に行う。 ・自ら技術向上の為にどのようなトレーニングをしたら良いのかを考えられるようになる。
評 価 方 法	・実技（演奏会）により評価。 ・学習状況 ・発問への対応	・実技（演奏会）により評価。 ・学習状況 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
		I	II	III		

1 学 期	合 奏	基礎練習 音程や音色のチェック	○	○	○	よりよい音色をだせるようにトレーニングする。 曲を通じて、ただ演奏するのではなく、音楽表現を豊かにし、自分が伝えたい音楽を演奏できるようにする。	学習状況 実技試験
2 学 期	合 奏	曲に応じて効果的な練習方法や時代背景を学ぶ	○	○	○	音価について理解し、楽譜に忠実な演奏が出来るようになる。 フレージングについて学び、より高度な演奏が出来るようになる。	学習状況 実技試験
3 学 期	合 奏	楽曲をアナリーゼし、楽語について理解を深める	○	○	○	1 学期・2 学期で学んだことを総合的に生かした演奏が出来るようになる。 アンサンブル力を高める。 合奏曲はその都度決定します。	学習状況 実技試験

2024 年度 相愛高等学校 1 年 普通科 特進コース シラバス

教科	教養	科目	吹奏楽	単位数	1	選択等	選択
教科書	なし						
副教材等	楽器・楽譜						

1 学習の到達目標

・演奏を通じて自己表現が出来るようになる。 ・楽器への知識を深め演奏技術を高める。 ・楽曲への理解を深められるようになる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

演奏することにより、自己表現する力を身につけ聴いて頂く方に感動を伝えられるようになりましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	・演奏する楽器に関心を持つ。 ・意欲的に音質向上に向け取り組む。	・楽曲や時代背景について知識を深め、自らの演奏技術によって表現する。 ・楽譜に書かれている楽語について理解を深める。	・発言等を積極的に行う。 ・自ら技術向上の為にどのようなトレーニングをしたら良いのかを考えられるようになる。
評 価 方 法	・実技（演奏会）により評価。 ・学習状況 ・発問への対応	・実技（演奏会）により評価。 ・学習状況 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
		I	II	III		

1 学 期	合 奏	基礎練習 音程や音色のチェック	○	○	○	よりよい音色をだせるようにトレーニングする。 曲を通じて、ただ演奏するのではなく、音楽表現を豊かにし、自分が伝えたい音楽を演奏できるようにする。	学習状況 実技試験
2 学 期	合 奏	曲に応じて効果的な練習方法や時代背景を学ぶ	○	○	○	音価について理解し、楽譜に忠実な演奏が出来るようになる。 フレージングについて学び、より高度な演奏が出来るようになる。	学習状況 実技試験
3 学 期	合 奏	楽曲をアナリーゼし、楽語について理解を深める	○	○	○	1 学期・2 学期で学んだことを総合的に生かした演奏が出来るようになる。 アンサンブル力を高める。 合奏曲はその都度決定します。	学習状況 実技試験